

デジタルビデオレコーダ 取扱説明書

VER 1.0

- 製品をご使用の前に、取扱説明書をお読みいただき、十分ご理解いただいた上で、正しくご使用されますようお願い致します。
- この取扱説明書は、後で確認できるよう分かりやすい場所に保管してください。
- サードパーティー製のカメラ・モニター・警報装置およびパソコン等を接続する場合、それらの説明書もお読みいただくようお願い致します。

安全上のご注意

火災や感電の危険を減らすため、
製品を雨や湿気にさらさないでください。

製品の設置は、資格のあるサービス担当者が行う必要があります。

注意

製品の動作前の確認

次の詳細に従って、物的損傷または人身事故を防止します。

重要な注意及び警告



警告：使用または正しく取り付けられていない場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。



注意：正しく使用またはインストールしないと、使用者が負傷したり、物的損害を受ける可能性があることを示します。



注意：感電や火災による危険を減らすには、霧や雨、湿気にさらさないでください。

一般的な警告



警告

1. 製造社からの付属または、推薦されている電源コードを使用してください。他の電源を使用した場合、火災・感電・加熱・装置の変形等の恐れがあります。
2. 製品の分解・改造をしないでください。
不具合や火災の原因になる可能性があります。
3. 製造メーカーに修理を依頼してください。
修理を適切に行わないと感電や火災を起こす可能性があります。
4. 濡れた手で製品に触れないでください。
誤動作や感電の原因になる可能性があります。
5. 製品の設置は、製品設置のために専門家に依頼する必要があります。
誤動作、感電、火災の原因となる可能性があります。
6. アースは、第三(アース)ピンを有する三線式アース式プラグを備えた映像製品に適用されます。
このプラグはアース型のコンセントにのみ差し込みます。
アースを行わないと、誤動作や感電の原因になる可能性があります。
7. 金属の異物が製品内に侵入するのを防いでください。
誤動作や感電の原因になる可能性があります。
8. 運転中に殺虫剤や可燃性スプレーを噴霧しないこと。
火事になるかもしれない。
9. 通気を保証する開放的な場所に製品を置いてください。
オーバーヒートを起こし、システムが損傷するおそれがあります。
10. 水などの液体を入れないでください。本機は防水ではありません。
液体がかかった場合や潮風で汚れた場合は、乾いた柔らかい吸水性の良い布で拭いてください。



注意

1. 製造社からの付属または、推薦されている電源コードを使用してください。
内蔵ファンが高速で回転し、事故を起こすことがあります。
2. 落下、強い振動、衝撃を与えないでください。
誤動作の原因になる可能性があります。

3. 前面パネルの吸気口及び背面パネルの排気口は、設置時に塞がれてはなりません。
製品の内部温度が許容値を超え、誤作動や火災を引き起こす可能性があります。
4. 雷が鳴っているときは製品と電源コードに触れないでください。
感電を起こす可能性があります。
5. 製品を熱源の近くまたは、上に設置しないでください。
製品の内部温度が許容値を超え、誤作動や火災を引き起こす可能性があります。
6. 製品を傾けたり不安定にしたり、振動が起こりやすい場所に設置しないでください。
誤動作の原因になる可能性があります。

電源に関する注意事項



警告

1. 電源コードのコンセントを使用して接続する必要があります。そうしないと、火災が発生する恐れがあります。
2. 電源コードの途中で接続したり、延長コードを使用したりしないでください。
発熱したり、火災を起こすことがあります。
3. 濡れた手で電源コードに触れないでください。
感電を起こす可能性があります。
4. 電源コードを乾燥させて湿気を防ぎます。
発熱したり、火災を起こすことがあります。電源コードは防水ではありません。
5. 電源プラグを外しながらプラグ本体を持ちます。
電源コードを引き抜かないでください。電源ケーブルが破損すると、発熱または火災が発生する可能性があります。
6. 電源プラグを定期的に確認してください。
煙草の湿気や喫煙が火災の原因になることがあります。
7. 長時間使用しないときは、コンセントから電源ケーブルを外します。
ショートや感電を起こす可能性があります。



注意

1. 電源プラグを取り外して電源を切らないでください。
電源を切るには、モニター画面で電源オフ動作を選択してください。
システムが異常停止すると、電源ボタンが機能しないことがあります。電源ボタンを5秒間長押しして電源を切ります。
2. ハードディスクが動作している間は、人為的に電源を切ったり、製品に衝撃や振動を与えないでください。
ハードディスクの障害またはデータの損失を引き起こす可能性があります。



備考

※ 機能または構成は、製品の改良に関する事前通知なしに変更または修正されることがあります。

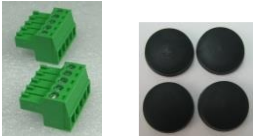
目次

1.	はじめに.....	6
1.1	梱包品の確認.....	6
1.2	システムの起動.....	6
1.3	システム終了.....	7
1.4	システムの説明.....	8
2.	スタートアップウィザード.....	11
2.1	言語.....	11
2.2	日付/時刻.....	11
2.3	ユーザー.....	12
2.4	HDD初期化.....	13
2.5	ネットワーク.....	13
2.6	DDNS.....	15
2.7	終了.....	15
3.	操作.....	16
3.1	ユーザーログイン.....	16
3.2	ライブディスプレイモード.....	16
3.3	PTZの動作.....	19
3.4	録画された画像の再生.....	20
3.5	録画された画像の検索.....	22
3.6	DST(夏時間)設定と画像の再生.....	25
4.	設定.....	26
4.1	システム.....	27
4.2	デバイス.....	33
4.3	イベント.....	38
4.4	録画.....	42
4.5	ネットワーク.....	46
4.6	バックアップ.....	53
5.	IEを介したウェブ監視.....	55
5.1	ウェブログイン.....	55
5.2	ウェブモニタリング.....	56
5.3	ウェブ再生.....	57
5.4	設定.....	58

1. はじめに

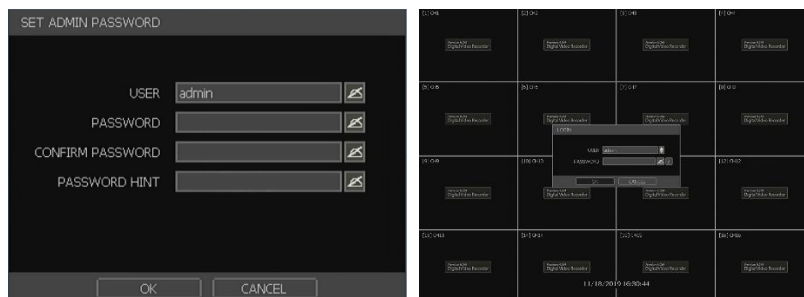
1.1 梱包品の確認

次のアイテムが DVRに付属していることを確認します。 これらのアイテムのいずれかが欠品または破損している場合は、直ちにベンダーに通知してください。 梱包品は、移動または保管のために保管してください。

品名	イメージ	数量
取扱説明書		1 個
アダプターと電源コード	 (*) 製品によって異なる場合があります。	1 セット
IRリモコンとマウス		各 1 個
ターミナルブロックとゴムマウント	 (*) 製品によって異なる場合があります。	1ペア (2個) 1 セット

1.2 システムの起動

カメラ、モニター、マウスなどの周辺機器を DVRに接続したら、アダプターを背面パネルの電源ジャックに接続して電源を入れます。 ブートロゴが表示された後、起動プロセスが完了するまでお待ちください。



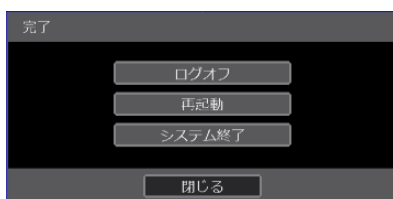
システムが起動すると、[パスワード変更]ウィンドウが表示されます。ユーザは、使用可能な任意のパスワードを設定できます。または、[OK]をクリックして、デフォルトのパスワードを空（パスワードなし）のままにします。ログインするには、画面上の任意の場所を右クリックし、ポップアップ画面にユーザ名とパスワードを入力します。DVRに設定できる管理者アカウントは、1つだけです。「admin」とマークされた変更不可能なユーザIDが割り当てられます。管理者アカウントは、DVRとその設定可能なパラメータに全てのアクセスでき、新しいユーザを作成して新しいユーザアカウントに権限を割り当てることもできます。DVRが自動ログインに設定されている場合、ログインプロセスは不要です。

注意 ユーザーがネットワーク設定を DHCPモードに設定しても、ネットワークに DHCPサーバが存在しないか、ネットワークが接続されていない場合に電源を入れてからシステムを起動するのに数分かかることがあります。

ノート 1) 初めて設定した管理者のパスワードを忘れないでください。パスワードを忘れた場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
2) 自動ログインおよび自動ログオフについては、“4.1.2 ユーザー”を参照してください。

1.3 システム終了

電源を切るには、ツールバーの終了ボタンをクリックし、ポップアップ画面の「システム終了」をクリックします。電源プラグを引いて電源を切らないでください。



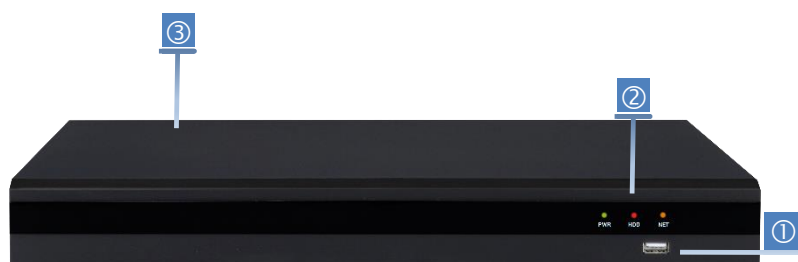
パスワードを入力し、[確認]をクリックしてシステムを終了します。[はい]をクリックして終了を確認します。



ノート ユーザーは、仮想キーボード、IRリモコンでパスワードを入力できます。

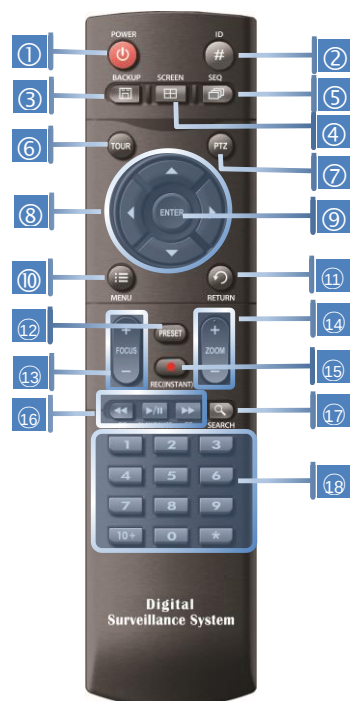
1.4 システムの説明

1.4.1. 前面パネル



- ① USB ポート : マウスやバックアップ用USBメモリーを接続します。
- ② LED インジケーター : システムステータスを示します。(電源、HDD、ネットワーク状況)
- ③ 電源ボタン : 製品の背面に位置します。

1.4.2. IR リモコン



- ① Power : 電源オン/オフ
- ② DVR ID 選択
- ③ バックアップボタン
- ④ 画面モードボタンライブモードの自動シーケンスボタン
- ⑤ ライブモードの自動シーケンスボタン
- ⑥ Presetツアー : PTZモードでツアーオン/オフ
- ⑦ PTZボタン
- ⑧ 方向ボタン
- ⑨ 確認ボタン
- ⑩ メニュー向ボタン
- ⑪ Returnボタン
- ⑫ Presetボタン : PTZモードでプリセット選択
- ⑬ Focusボタン : PTZモードで Focusイン/アウト
- ⑭ Zoomボタン : PTZモードで Zoomイン/アウト
- ⑮ 非常録画ボタン
- ⑯ 検索モードの再生ボタン
- ⑰ 検索ボタン
- ⑱ 数字ボタン : チャンネル選択/パスワード入力

ノート 1つのIRリモコンで複数の DVRを制御できます。
 複数の DVRを制御するために、各 DVRは異なる Remote IDを持ちます。
 (初期 ID は"0"に設定されます)。

ノート IRリモコンでID番号を設定する方法

- 1) ID選択ボタン(②)を約5秒間押し続けます。
- 2) IRリモコンの数字ボタンを押してID番号を設定します。
ID番号は 000 ~ 255です。

- 3) 3桁の番号形式として数字ボタンを押す必要があります。
 例えば、0の場合は“000”、23の場合は“023”、234の場合は“234”を押します。

1.4.3. ライブモードのツールバー

ライブ画面で、マウスカーソルを画面下部に移動してメニューバーを表示します。



メニューボタン



メニュー ボタンをクリックして、DVRのメインメニュー画面にアクセスします。 詳細については、“4. 設定”を参照してください。

ディスプレイモード



使用可能なオプションからディスプレイ分割モードを選択します。 1、4、6、8、9、10、13、16chモードを選択します。

シーケンスモード



ライブモードでシーケンス モードを開始または停止します。 すべてのチャンネルが表示されている場合、シーケンスは無効化されています。

チャンネル



対応する番号を押して、特定のチャンネルのシングルチャンネルビューに切り替えます。

緊急録画



システムは、録画設定に関係なく、フルフレームレートのチャンネルをすべて最大解像度で記録します。緊急記録を停止するには、同じアイコンを再度クリックします。

バックアップ



録画した映像を外部デバイスにバックアップします。 詳細については、“4.6 バックアップ”を参照してください。

再生



再生モードに切り替えます。 詳細については、“3.4 録画された画像の再生”を参照してください。

検索



検索オプション画面を開きます。 詳細については、“3.5 録画された画像の検索”を参照してください。

Exit 

ログアウト、再起動、およびシャットダウンの3つのオプションを使用して DVRを終了します。

メニューバー固定トグル 

メニューバーを固定すれば、マウスの位置に関係なく、DVRのメニューバーが常に表示されます。

1.4.4. 再生モードのツールバー

再生画面で、マウスカーソルを画面下部に移動してメニューバーを表示します。



チャンネル 

現在選択されているチャンネルを示します。

インテリジェント検索バー



選択したチャンネルの録画ステータスを 00:00 ~ 24:00 で表示します。 白い縦線は、現在表示されている時刻を示します。 白い縦線を移動すると、映像が更新されます。

前/次の日付の検索  

前の日または次の日に移動して検索できます。

再生調整ボタン



: 逆再生速度調整 (x32 / x16 / x8 / x4 / x2)



: 1フレームコマ戻し



: 停止ボタン



: 再生ボタン



: 1フレームコマ送り



: 再生速度調整 (x2 / x4 / x8 / x16 / x32)



: 現在の再生速度の表示

画面分割モード 

使用可能なオプションから画面分割モードを選択します。 1、4、6、8、9、10、13、16CHモードを選択します。

簡単バックアップ 

録画した映像をUSBメモリスティックやUSB HDDなどの外付けデバイスにバックアップします。 詳細については、“4.6 バックアップ”を参照してください。

検索

検索オプション画面を開きます。 詳細については、“3.5 録画された画像の検索”を参照してください。

再生モード終了

再生モードを閉じ、ライブモードに移動します。

メニューバー固定トグル

メニューバーを固定すれば、マウスの位置に関係なく、DVRのメニューバーが常に表示されます。

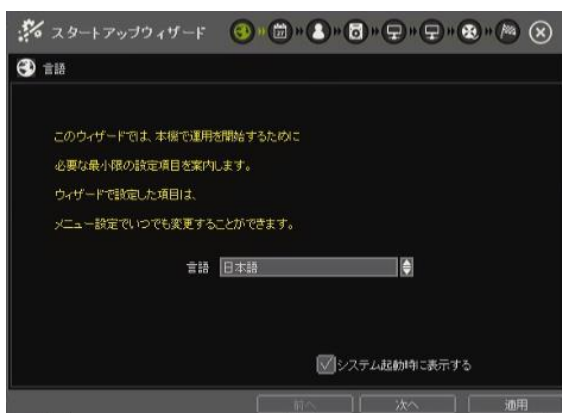
2. スタートアップウィザード

DVRが初めて起動すると、スタートアップウィザードが表示されます。 このウィザードは、DVRの最も基本的な設定を正しく設定するために役立ちます。 ”メニュー > システム > 設定”メニューの設定ウィザードボタンをクリックすると、いつでも設定ウィザードの画面にアクセスできます。

2.1 言語

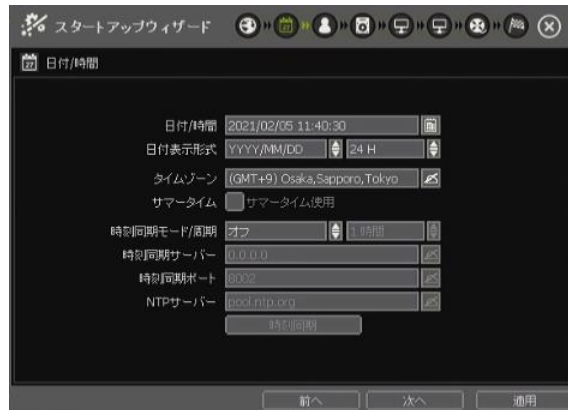
使用する言語を選択します。

[システム起動時に表示する] が選択されている場合、システムを起動するたびにスタートアップウィザードがポップアップ表示されます。



2.2 日付/時刻

DVRの日付と時刻の形式を選択し、[タイムゾーン]を選択し、サマータイムを有効または、無効にし、NTPサーバとDVRを同期するか、日付と時刻を手動で入力します。DVRとNTPサーバの同期を選択することもできます。NTPサーバは、DVRの日付と時刻設定を自動的に同期します。



時刻同期モード

時刻同期モードには下記の3つのタイプがあります。

- SERVER モード:動作中の DVRは、同じネットワーク環境で接続された別の DVRのタイムクロックを同期できる時刻同期サーバとして設定されます。
- CLIENT モード:"SYNC SERVER"で、指定した DVRまたはリモートソフトウェアPCのIPアドレスを時刻同期サーバとして入力します。 DVRのタイムクロックは、"TIME SYNC CYCLE"で設定されたインターバルタイムによってサーバと同期されます。
- NTP SERVER モード:"pool.ntp.org"は推奨される NTPサーバです。有効化するには、ローカルエリアのタイムゾーンを設定し、[同期化]をクリックします。

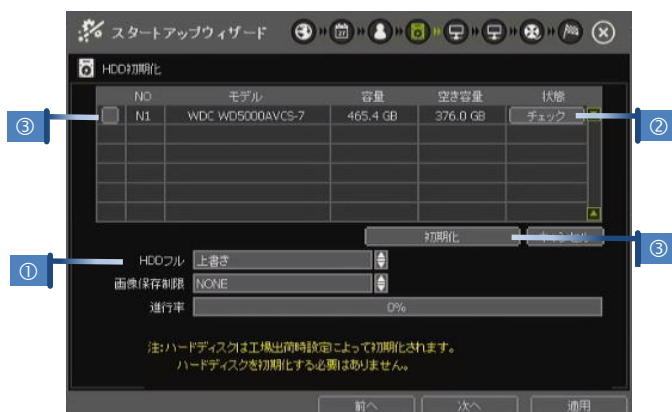
2.3 ユーザー

adminユーザは、システム設定に対する完全な権限を持っており、システムパスワードを変更したり、ユーザーを追加または削除したりして、ユーザーに異なる権限レベルを割り当てることができます。また、自動ログイン、自動ログアウト、ログオフを設定します。



ノート 詳細については、“4.1.2 ユーザー”を参考してください。

2.4 HDD初期化



HDDフル (①)

HDDが満杯の場合、ユーザは「上書き」または、「録画停止」を選択できます。

- 上書き : DVRは最も古いデータを削除し、新しいデータを記録します。
- 録画停止 : DVRは録画を停止します。

HDD チェック (②)

各HDDの横のチェックをクリックすると、HDDのモデル番号、シリアル番号、容量、不良ブロック、通電時間、温度の詳細情報が表示されます。

HDD 初期化 (③)

初期化するHDDの隣にあるチェックボックスをオンにし、初期化ボタンを押します。初期化処理中にネットワーク接続などのシステムリソースが使用されている場合、初期化処理が失敗する可能性があります。この場合は、システムを再起動してシステムリソースを解放し、初期化し直すことをお勧めします。



- ノート
- 1) HDDの初期化には数分かかることがあります。
 - 2) 初期化が完了すると、HDD内のすべてのデータが削除されます。
 - 3) システムは、ファイル保管メモリを有効に活用するために、内蔵HDDごとに一定のスペースを確保します。

2.5 ネットワーク

DVRとルータを適切に設定することにより、DVRは固定IP または動的IPを介してネットワークまたはインターネットに接続できます。



ネットワークタイプ

動的IPの場合は、STATIC IPまたは、DHCPを選択します。

DHCPを選択すると、DVRは現在のネットワーク要件に従ってネットワーク設定を自動的に設定します。DHCPが選択されている場合、[IP取得]ボタンをクリックして、すべてのネットワーク設定を自動に検出します。

STATIC IPを選択した場合は、必要なすべてのネットワーク設定を手動で入力します。正しく設定するには、DVRにDHCPアドレスを割り当て、適切なネットワーク設定をすべて自動検出してから、ネットワークタイプを[STATIC IP]に変更して、変更を保存することをお勧めします。

IPアドレス

DVRのIPアドレスを表示します。DHCPを選択すると、IPアドレスはネットワークの要件に合わせて自動に調整されます。必要に応じて手動でIPアドレスを変更することもできます。

サブネットマスク

サブネットマスクアドレスは、システムが属するサブネットを分類します。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

ゲートウェイ

ルータまたはゲートウェイサーバのIPアドレスです。これは、(別のネットワークから)インターネット経由で外部ルータを介してDVRに接続するときに必要です。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

DNSサーバ

ドメイン名サーバのIPアドレスを入力します。DDNS、Eメール通知および、NTPサーバを使用するには、DNSサーバ情報を入力する必要があります。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

TCP/IP ポート

ローカルまたは遠隔でDVRに接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは9010です。

WEB ポート

ウェブブラウザから接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは80です。ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効なウェブポート番号(例:8080)を入力する必要があります。

自動IP

自動IPによって割り当てられたシステムIPを自動に表示します。

帯域制限

設定に応じて、システムはネットワーク経由で送信されるデータ量を25kbpsから1Gbpsまで制御できま

す。この機能は、特に狭い帯域のネットワーク条件下、またはユーザが“映像伝送によって占有されるネットワーク帯域幅”を一定レベルに制限する場合に効果的です。デフォルトは 100Mbps です。

UPnP (Universal Plug and Play) を使用

UPnP は、DVR を同じネットワーク上の PC で自動的に検出できるプラグアンドプレイ機能です。DVR を検索するには、PC の「マイネットワーク」に移動します。PC はネットワークをスキャンして、サポートされているすべてのデバイスを探します。検出された DVR のファイル名の最初の 5 文字はモデル番号を表し、その後に DVR の IP アドレスが続きます。

ノート 同時接続の最大数は 15 ユーザです。

2.6 DDNS

パブリック DDNS サーバまたは DVR メーカーが運用する DDNS サーバ (dynlink.net) を使用して、動的 IP を介して接続できます。

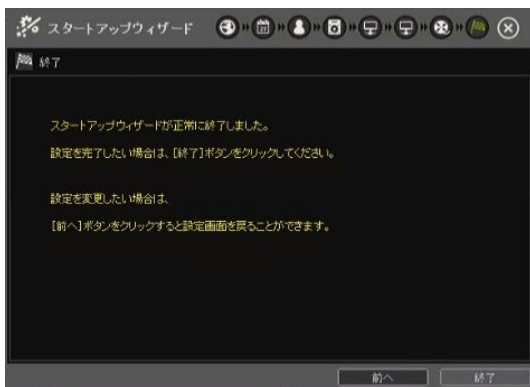


ネットワーク環境に基づいた必要な情報を入力します。

- DDNS 使用をチェックします。
- DDNS サーバ: DYNLINK.NET を選択します。
- TCP/IP ポート: 基本値は 80 です。
- ドメイン名: DVR のドメイン名を割り当てます。同じドメイン名が割り当てられている場合は、[チェック] をクリックするとメッセージがポップアップ表示されます。

2.7 終了

設定が終了したら、[終了] ボタンをクリックしてスタートアップウィザードを閉じます。



3. 操作

3.1 ユーザーログイン

電源接続を確認します。

システムの電源を入れた後、ログインするためのユーザーとパスワードを入力します。出荷時のデフォルトIDは「admin」で、パスワードはありません。adminユーザは、[OK] ボタンをクリックして DVRシステム全体を制御できます。



-
- ノート
- 1) ログインウィンドウはユーザが正しいIDとパスワードでログインするまで表示されます。
 - 2) DVR が自動ログオンに設定されている場合は、ログインプロセスは必要ありません。
-

3.2 ライブディスプレイモード

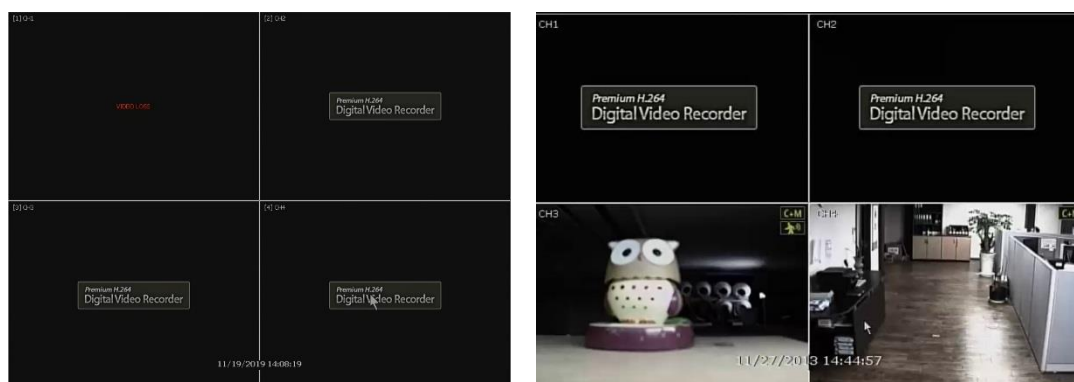
3.2.1. チャンネルの選択

ライブ映像は電源投入後の簡単なボタン操作で見ることができます。画像は、1、4、9、および 16の画面分割で確認できます。(一部の分割オプションは、DVRのチャンネル数によって使用できない場合があります。)

リモコンの上矢印ボタン/下矢印ボタンが押され、ツールバーの画面表示モードボタン()をクリックすると、次のチャンネルまたは一連のチャンネルが表示されるように画面が変更されます。マルチチャンネルビューから1つのカメラに切り替えるには、選択したチャンネルをクリックします。前の画面モードに戻るには、マウスの左ボタンを再度クリックします。

カメラが接続されていないか、突然切断されると、“VIDEO LOSS”と表示されます。カメラの接続を解除すると、システムの設定に応じて警告音が鳴ります。

adminの権限を持ったユーザは、ユーザごとに異なる許可レベルを設定して、特定チャンネルに特定のアクセスを許可できます。あるユーザがチャンネルの表示を許可されていない場合、以下のように表示画面には画像が表示されません。



3.2.2. アイコン

リアルタイムライブモードでは、システムモードまたはステータスを通知するアイコンまたはメッセージが画面に表示されます。次に、モニタに表示されるアイコンのカテゴリを示します。

各チャンネル画面の右上隅に表示されるアイコン		全画面の右上隅に表示されるアイコン	
	連続録画		HDDが認識されない
	モーション検知録画		緊急録画が使用中
	アラーム録画		PTZが使用可能
	連続録画 + モーション録画		温度超過の警告
	連続録画 + アラーム録画		シーケンスモードが使用可能
	モーション録画 + アラーム録画		デジタルズームが使用可能
	緊急録画		
	アラーム活性化		
	モーション活性化		
	音声チャンネル		
	PTZカメラ		
	POS		

ノート 画面の右隅に録画アイコンが表示されない場合は、システムは録画していません。メインの設定メニューで録画スケジュールまたはカメラを確認します。

3.2.3. ポップアップメニュー

マウスの右ボタンをクリックすると、次のようにサブメニューがポップアップ表示されます。特定のチャンネルを制御する場合は、そのチャンネルにマウスカーソルを置き、右ボタンをクリックします。



ディスプレイモード

使用可能な画面分割モードから変更できます。(1, 4, 6, 8, 9, 10, 13, 16分割モード)

次のチャンネル

現在の画面分割モードで、次のチャンネルまたは、次のカメラグループを表示します。

シーケンス

“シーケンス”を選択すると、画面右下隅に **SEQ** アイコンが表示されます。表示画面が順次変更されます。

デジタルズーム

- デジタルズームはシングルチャンネルのみ使用できます。[デジタルズーム]を選択すると、画面の右ボタン隅に **ZOOM** アイコンが表示され、デジタルズームコントロールを使用できます。
- ズームインするには、マウスのカーソルを目的領域にドラッグしてズーム領域を作ります。マウスホイールを上下にスクロールさせてズームインとズームアウトを制御することもできます。画像をズームインすると、領域のエッジをクリックしてドラッグすることで、ズーム領域を移動できます。
- ズームモードを終了するには、右をクリックします。

PTZ

PTZモードを有効にします。使用可能な PTZ オプションは、カメラの設定によって異なります。詳細については、カメラのマニュアルを参照してください。

ライブ画像静止

ライブ映像をフリーズします。システム時計(日付/時刻情報)が画面下部で動作し続けます。ライブ映像を再開するには、マウスの右クリックで[画面フリーズ]を再度選択します。

ブックマーク追加

表示されているイメージに説明付きのブックマークを追加します。ブックマークメニューが表示されたら、説明を入力し、[OK]をクリックして保存します。



再生

特定の時間 (10秒前/15秒前/30秒前/60秒前/2分前/3分前/5分前)を選択し。再生モードに切り替えます。

検索

カレンダー、日付/時間、最初のデータ、最後のデータ、システムログ、イベントログ、ディスクログ、P0 S、ブックマークのオプションを使用して、録画された映像を検索します。(詳細については、“3.5 録画された画像の検索”を参照してください)。

S. M. A. R. T検索

録画映像をサムネイル検索モードで検索します。

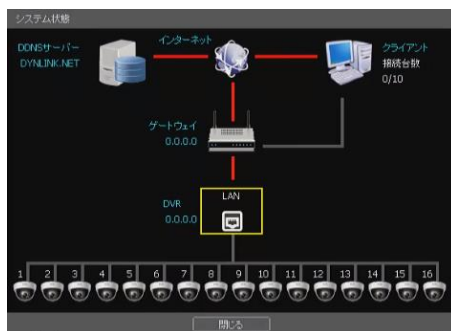
録画情報

保存期間、一日平均容量(平均)、現在保存日数、予想保存日数について録画情報を確認できます。

録画情報	
録画期間	2021/11/19 ~ 2021/02/19
1日当たりのデータ量(平均)	744MB
現在の録画日数	132 日
残りの録画可能日数	508 日

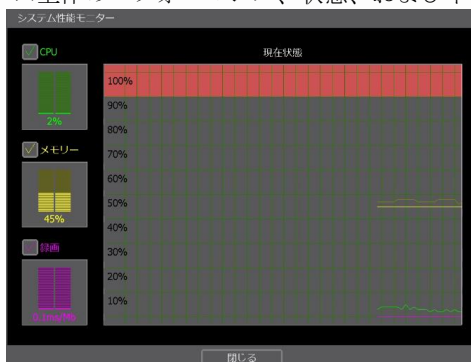
システム状態

ネットワーク状態、DVRに現在接続されているクライアント数などのシステムステータスを確認します。緑の線は、接続が有効で動作していることを示します。



分析

システム全体のパフォーマンス、状態、およびネットワーク状態を確認します。



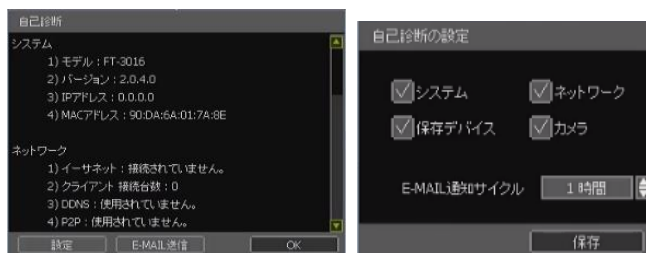
[システム性能モニター]



[ネットワークモニター]

自己診断

DVRシステム、ネットワーク、カメラ、HDDの情報をテキストとして表示します。
Eメール通知サイクルを表示及び設定する情報を選択します。



メニュー設定

メインメニューの設定画面を開きます。

3.3 PTZの動作

PTZカメラを操作するには、PTZカメラに接続されているチャンネルが全画面モードになっている必要があります。PTZコントロールを有効化にするには、右クリックしてポップアップメニューの [PTZ] を選択します。

PTZモードでは、画面の右ボタン隅に **PTZ** が表示されます。



PTZ コントロール

PTZモードでは、USBマウスで PTZカメラを制御できます。左ボタンを押しながら、マウスのカーソルを上下または、左右にドラッグして、カメラのパン/チルト位置を移動します。マウスのカーソルが中心から遠ざかるほど、PTZカメラは速く動きます。カメラをプリセット位置に移動するには、画面下部のプリセット位置番号をクリックしてカメラを移動します。プリセットは選択前に設定する必要があります。



ノート マウス、リモコン、またはキーボードコントローラを使用して、PTZ機能を利用できます。

ズーム/FOCUS

マウスのホイールを上下に回転させてズームイン/ズームアウトします。モードが“FOCUS”に変更されると、マウスのホイールを回すことでカメラのフォーカスを制御できます。

プリセット

プリセットメニューが表示されたら、プリセット番号を選択し、“Enter”をクリックして対応するプリセット位置に移動します。サポートされる最大プリセット数は 255 です。

ツアー

ツアー機能を有効にします。“ツアー”が始まると、カメラが順番にプリセット位置に移動します。ツアーをオフにするには、画面を右クリックして [ツアー] を選択します。

ガードツアー

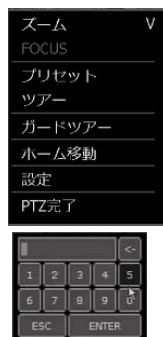
有効にすると、カメラは、ガードツアー設定で設定されたプリセット シーケンスに従って自動的に位置を切り替えます。詳細については、“4.2.3. PTZ”を参照してください。

設定

PTZ セットアップメニューに移動します。（“4.2.3. PTZ”を参照してください。）

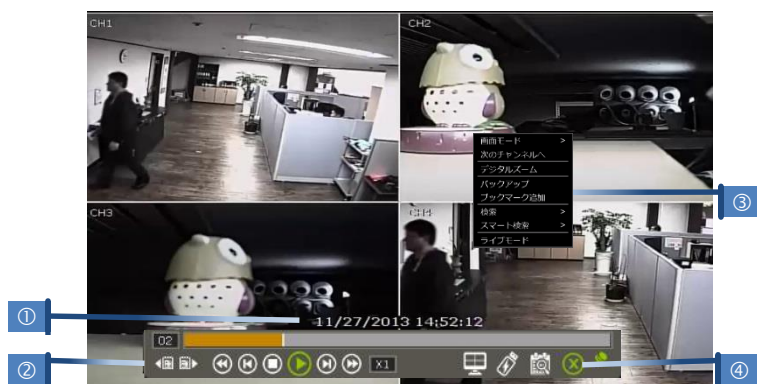
PTZ完了

PTZコントロールモードを閉じます。



3.4 録画された画像の再生

録画された画像を再生するには、IRリモコン、またはメニューバーの再生アイコン (📺) を押します。DVRは再生モードに移行すると、自動的に最新の記録画像を再生します。



日付/時刻(①)

表示されている画像の日付と時刻を表示します。

ツールバー (②)

再生制御、録画データチェック、スクリーンモードなどが含まれます。(詳細は、“1.4.4. 再生モードのツールバー”を参照してください。)

ポップアップメニュー (③)

- ◆ ディスプレイモード: 表示モードを変更します。(1~16 画面モード)
- ◆ デジタルズーム: デジタルズームを有効と無効にします。(シングルチャンネルビューで利用可能)
- ◆ 次のチャンネル: 次のチャンネルを表示します。
- ◆ バックアップ: バックアップウィンドウを開きます。
- ◆ ブックマーク追加: 現在の画像にブックマークを追加します。
- ◆ 検索: さまざまな条件で録画データを検索します。(詳細は “3.9 録画された画像の検索”を参照してください。)
- ◆ S.M.A.R.T検索: 録画した動画を分割画面モードで時間と分単位で検索します。
- ◆ ライブモード: ライブモードに移動します。

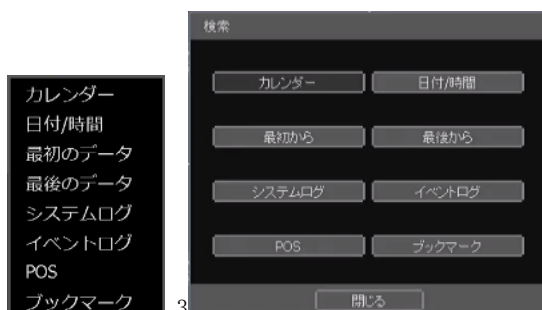
再生モード終了 (④)

メニューバーの終了アイコン  をクリックするとライブビューに戻ります。

3.5 録画された画像の検索

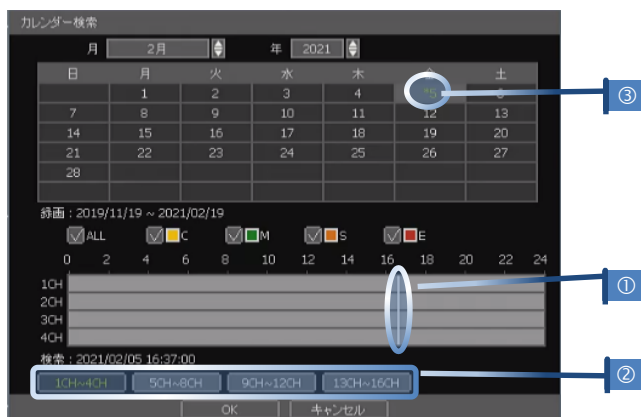
録画された画像を日時、最初と最後のデータ、イベント、ブックマークなどで検索します。

- ノート 検索オプションメニューを開始するには：
- ① 再生モードで、右クリックしてポップアップメニューに入り、検索メニューを選択します。
 - ② ライブモードで画面下部のツールバーの検索ボタン  を押します。



3.5.1. カレンダー

特定の日付と時刻のデータを検索するには、日付と時刻を選択します。



白い縦線(①)を検索したい時刻に移動します。

タイムバーの色は、さまざまな録画モードを表します。タイムバーには一度に4つのチャンネルが表示されます。次の4つのチャンネルを確認するにはウィンドウ(②)下部のグループボタンを押します。

日付(③)の“*”マークは、録画ビデオが使用可能な日を示します。

3.5.2. 日時検索

カレンダー画面に希望の日時を入力します。

矢印ボタンまたはマウスを使用して、各曜日・月・年と時刻カテゴリに移動し、秒分時月年を選択します。

記録されたデータがある日は、緑色で強調表示され、横に「*」が表示されます。



3.5.3. 最初から

録画された画像の最初の画面に移動します。これは録画された最も古い画像です。

3.5.4. 最後から

録画された画像の最後の画面に移動します。これは録画された最新の画像です。

3.5.5. システムログ

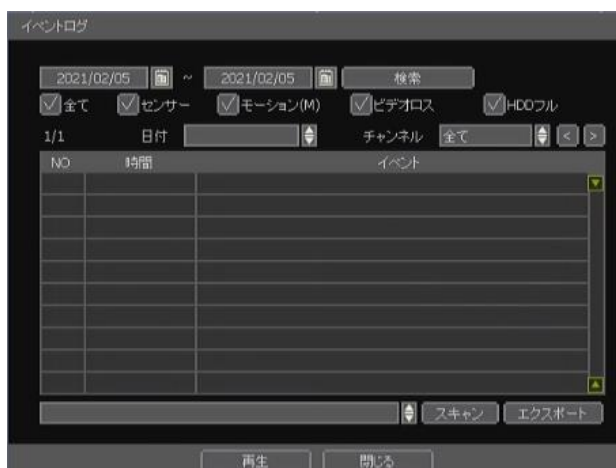
システムログ検索は、特定のシステムログ情報をすばやく簡単に検索するために使用されます。



- ① 検索日付を選択します。
- ② 検索するログの種類を選択します。個々のイベントまたはすべてを一度に検索できます。
- ③ 検索結果を表示するには[検索]ボタンをクリックします。
- ④ エクスポートが完了すると、USBドライブに作成された日付フォルダを見つけることができます。日付フォルダに system.log ファイルが保存されています。

3.5.6. イベントログ

センサーの起動、モーション検出、映像損失、HDDフルまたは、温度アラームなどの特定のイベントを確認します。イベントもキーワードで検索されます。



- ① 検索する日付を選択します。
- ② ログタイプを選択します。 個々のイベントまたは、すべてのイベントを一度に検索できます。
- ③ リスト内の検索結果を表示するには、[検索]をクリックします。
- ④ [保存]をクリックして、リストをUSBメモリなどの外部デバイスに”.txt” ファイルとしてコピーします。

ノート	1ページに50個のログ記録が表示されます。 矢印ボタン(< >)をクリックして、別のページのログ記録を検索できます。
-----	--

3.5.7. POS

検索情報(チャンネル番号、日付、時間、キーワード)を入力し、[検索]をクリックして検索結果を表示します。 結果をフィルタリングするには、キーワードを入力します。 [再生]をクリックして、映像とPOSデータを再生します。



3.5.8. ブックマーク

ブックマーク検索を使用すると、ブックマークの確認、変更、削除を行うことができます。 検索結果リストからブックマークを選択し、[再生]ボタンで映像を表示します。

3.6 DST(夏時間)設定と画像の再生

DST(Daylight Saving Time)期間中は、DVR(DVR)タイムクロックを地域の時間帯に応じて調整する必要があります。つまり、DVRのタイムクロックは DST 設定後 1時間ずれますが、DVRは DST終了後にタイムクロックを通常に戻します。

3.6.1. DST設定

DST設定を有効にするには、システム > 情報 にアクセスし、“日付/時間”  をクリックします。
[DST使用]を選択して、DSTの時刻変更を適用します。(DSTを有効にするには、DST設定を許可する適切な時間帯を選択します。)



3.6.2. DST 画像の再生

DSTによりデータが重複する時間が1時間ある場合、再生中にプログレスバーの青で重複する時間が示されます。



重複した時刻からデータを再生するには、プログレスバーで時間を選択します。“データ選択”メッセージが表示されます。 DSTデータと非DSTデータのどちらを再生するかを選択します。

4. 設定

一般的な設定構造は、以下のように「システム」、「デバイス」、「イベント」、「録画」、「ネットワーク」、「バックアップ」で構成されています。



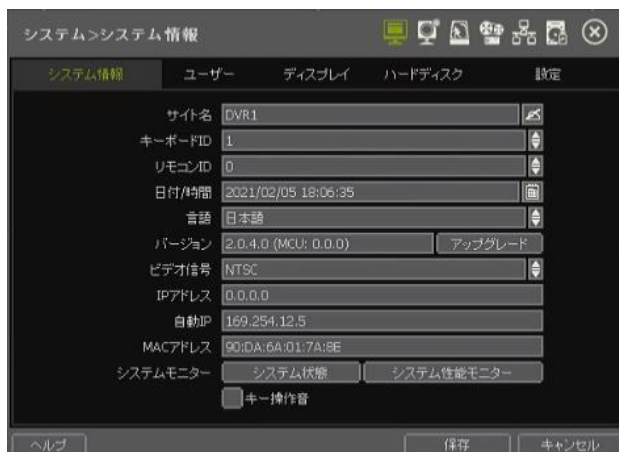
メイン項目	サブ項目
システム	システム情報
	ユーザー
	ディスプレイ
	ハードディスク
	設定
デバイス	カメラ
	音声
	PTZ
	POS
	キーボード
イベント	センサー
	モーションセンサー
	システムイベント
録画	カメラ
	ライブストリーミング
	録画スケジュール
ネットワーク	ネットワーク
	DDNS
	通常
	モバイルプッシュ
	P2Pクラウド
バックアップ	バックアップ

セットアップメニューにアクセスするには、メニューバーの  ボタンをクリックするか、画面の任意の場所を右クリックしてセットアップを選択します。

マウスポインターを「システム」から「バックアップ」に移動すると、メニュー画面のサブメニューをすぐに確認できます。

4.1 システム

4.1.1. システム情報



サイト名

DVRを他のサイトと区別するサイト名を入力します。

キーボードID

キーボードコントローラのID設定に合わせてサイトIDを設定します。キーボードモデルとボーレートは、“メニュー > デバイス > キーボード”で設定する必要があります。（“4.2.5 キーボード”を参照）

リモコンID

DVRを制御するには、REMOTE IDを IRリモコンの ID設定と一致するように設定する必要があります。

日付/時間

使用可能なオプションを使用して、日付と時間を手動で調整し、日付と時間の表示モードを選択し、適切な時間帯を選択します。必要に応じて、[DST使用]ボックスをオンにします。



時間同期モードには3つのタイプがあります。

- ◆ サーバモード
動作中のDVRは、同じネットワーク上で他のDVRが接続されている時間を同期できる時刻同期サーバとして設定されます。
- ◆ クライアントモード

指定した DVRまたはリモートソフトウェアPCのIPアドレスを“同期サーバ”で時刻同期サーバとして入力します。DVRのタイムクロックは、“時刻同期サイクル”で設定された間隔時刻によってサーバと同期されます。

◆ NTPサーバモード

“pool.ntp.org”は推奨される NTPサーバです。有効にするには、ローカルエリアのタイムゾーンを設定し、[Sync NOW]をクリックします。

DST 設定については、“3.6.1 DST 設定”を参照してください。

ノート [ヘルプ] ボタンを使用すると、いくつかの重要な設定を行う方法を理解できます。
例えば、日付/時間の設定方法についてヘルプが必要な場合は、メニューの右下にある [ヘルプ] ボタンをクリックします。

言語

使用言語を選択します。

バージョン

DVRの現在のファームウェアバージョンを表示し、USBフラッシュメモリまたは FTPサーバ接続を使用して新しいバージョンにアップデートします。



注意 **ファームウェアのアップグレード中に [キャンセル] をクリックしないでください。システムに重大なダメージを与える可能性があります。**
設定は工場出荷時のデフォルトに変更できます。ファームウェアのアップグレード後に、DVRの設定と動作状態を確認することを推奨します。

USBメモリスティックを使用したシステムファームウェアのアップグレード方法：

- 1) ファームウェアファイルが FAT/FAT32でフォーマットされたUSBメモリをDVRのUSBポートに挿入します。(USB 2.0バージョンに対応)
- 2) ドロップダウンオプションから 'USB' を選択し、[スキャン] ボタンを押します。
- 3) USBメモリが検出されると、[現在のバージョン] と [新しいバージョン] の下にファームウェアファイルが表示されます。
- 4) [スタート] をクリックしてアップグレードプロセスを開始します。

FTPサーバを介した自動ファームウェアアップグレードを使用したシステムのアップグレード：

- 1) [方式] のドロップダウンオプションで FTPを選択します。
- 2) デフォルトの FTP情報(ホストアドレス、ユーザ名とパスワード)を次に示します。独自の FTPサーバを運用する場合は、製造元に事前に相談する必要があります。
- 3) チェック時間を入力します。システムは、FTPサーバに新しいファームウェアが毎日設定された時刻に自動的にチェックされます。



- 4) [保存]ボタンをクリックして、ファームウェアの自動アップグレードを実行します。完了すると、システムが再起動します。
- 5) [チェック]をクリックして、DVRが FTPサーバに接続できるようにし、最新のファームウェアバージョンを確認します。新しいファームウェアが使用可能になった場合、アップグレードするかどうか尋ねられます。
- 6) [保存]をクリックして確認し、[スタート]をクリックしてアップグレードを開始します。

ビデオ信号

国に応じて正しいビデオ信号 (NTSCまたはPAL) を確認します。

IPアドレス

DVRの現在の IPアドレスを表示します。 “メニュー>ネットワーク>ネットワーク”で設定できます。

自動IP

DVRの自動IPアドレスを表示します。

MACアドレス

DVRの一意の ID番号を表示します。

システムモニター

システムの現在の状態を表示します。

キー操作音

キーパッドのビープ音をオン/オフできます。

4.1.2. ユーザー

ADMIN ユーザは、システム設定に対する完全な権限を持っており、パスワードを変更したり、ユーザを追加または削除したりして、ユーザに異なる権限レベルを割り当てることができます。

ノート 管理者を含む最大ユーザ数は 16です。

ユーザー管理

ユーザー管理は、各機能の許可を制御できます。この認可は、ユーザーがリモートソフトウェアから DVRに接続する場合にも適用されます。



① 追加と編集

新しいユーザーを追加するには、[追加]をクリックします。新しいセットアップウィンドウで、新しいユーザの ID、説明、およびパスワードを設定します。 対応する機能の横にあるチェックボックスをオンにして、ユーザがアクセスできる機能とメニューオプションを選択します。ライブと再生モードでは、選択したチャンネルだけがユーザーに表示されます。

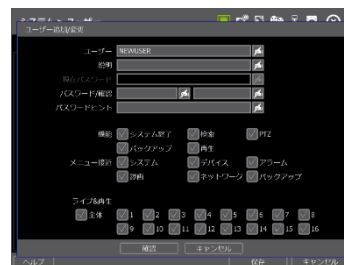
設定を変更するには、ユーザーを選択して [編集] をクリックします。

② 削除

名前を強調表示してリスト内のユーザーを選択し、[削除] をクリックします。

③ ログインオプション

- 自動ログインの“起動時”がチェックされている場合、電源投入後に ID とパスワードを要求しません。
- もし、[自動ログアウト] が有効の場合、非アクティブに設定された時間が経過すると、現在のユーザをログアウトします。
- [ログオフ]-[ライブ表示] オプションにチェックされている場合、ログオフ後にライブ画面を表示します。



リモートソフトウェア (UVMS) での許可レベルの設定

ユーザの権限レベルは、DVR とリモートソフトウェアの間でリンクされます。DVR でユーザが制限されている場合は、リモートソフトウェアの操作時にも制限が適用されます。

4.1.3. ディスプレイ

シーケンス切換時間、モニター解像度、OSD 表示オプションなどを設定できます。



シーケンス切換時間

シーケンシャルチャンネル表示の待機時間を設定します。

モニター解像度

システムでは、次の種類のビデオ解像度がサポートされています。:

HDMI: 2560x1440、3840×2160(4K)、800x600、1024x768、1280x1024、1920x1080

VGA: 1920x1080、800x600、1024x768、1280x1024

SPOT: D1

モニターの解像度に応じて適切な解像度を設定します。

OSD

対応するボックスをオンにして、ディスプレイに表示する情報を選択します。

スポット出力

スポットモニターに表示するチャンネルを選択し、待機時間を設定します。

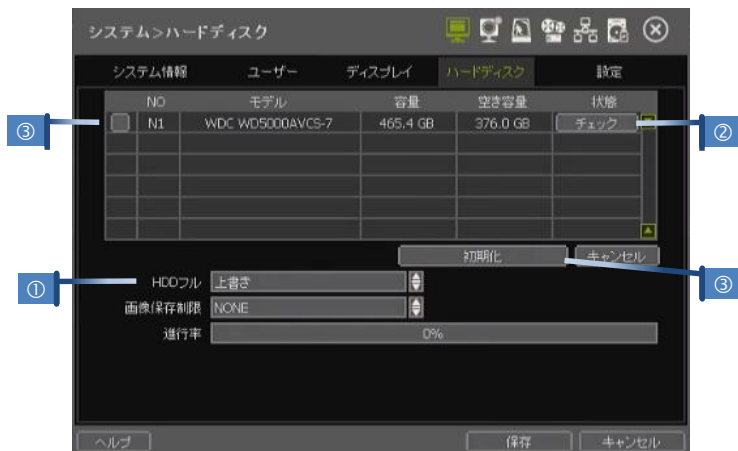
スクリーンセーバー

スクリーンセーバー機能は、一定の時間に製品を使用しないときにオフにすることによって、DVRの画面とデータを保護します。モニターが自動的にオフになるまでのスクリーンセーバーの待機時間を設定します。1~180分に設定してください。必要に応じて、スクリーンセーバーがオンになっているときに現在のユーザをログオフすることを選択します。

チャンネル変更

チャンネルをドラッグアンドドロップで変更するかどうかを確認します。

4.1.4. ハードディスク



HDD フル (①)

HDDが満杯になったら、“上書き”するかまたは、“録画停止”するかを選択します。

- 上書き : 最も古いデータを削除し、新しいデータを記録します。
- 録画停止 : 録画を中止します。

HDD チェック (②)

各HDDの横にある[チェック]をクリックして、HDD状態確認ウィンドウを開きます。各HDDのモデル、シリアル番号、容量、不良ブロック、通电時間、温度などの詳細情報を参照してください。



注意**警告メッセージ**

システム内の温度が最適範囲を超えると、システムの高レベルの安定性を実現するために、高温の警告メッセージが表示されます。この問題は、換気ファンの誤動作が原因である可能性があります。冷却ファンが正しく動作しているか、システム周辺の温度が適切に保たれているかを調べてください。

HDD 初期化 (㊸)

新しいHDDを取り付けたり、HDDに問題があると思われる場合は、HDDを初期化することをお勧めします。HDD初期化の処理中にネットワーク接続などのシステムリソースが使用されている場合は、初期化に失敗する可能性があります。この場合は、システムを再起動してシステムリソースを解放し、初期化を再試行してください。

HDD名の横にあるチェックボックスをオンにし、初期化ボタンを押して、初期化するHDDを選択します。HDDを初期化するには、パスワードを入力する必要があります。

ノート

- 1) HDDのフォーマットには数分かかることがあります。
- 2) フォーマットが完了すると、HDD内のすべてのデータが削除されます。
- 3) システムは、保管メモリを有効に活用するために、内蔵HDDごとに一定のスペースを確保します。

4.1.5. 設定**スタートアップウィザード**

スタートアップウィザードを手動で起動します。

工場出荷時設定

工場出荷時のデフォルト設定に初期化します。工場出荷時のデフォルトの設定が完了すると、すべての設定が削除され、システム設定が工場出荷時のデフォルトに戻ります。録画された映像は削除されません。

エクスポート / インポート

システム設定値をコピーして、記録を保存するか、別のDVRにコピーします。

- エクスポート：設定をUSBメモリデバイスにコピーします。
- インポート：別のDVRからCD/DVD/USBメモリを使用して設定をインポートします。

インポートプロセス前に、ソースDVRのF/WバージョンがターゲットDVRと同じであることを確認します。

4.2 デバイス

4.2.1. カメラ

各カメラタイトル、チャンネル非設定、プライバシー設定、コピー設定を行います。



解像度

カメラを接続すると、各カメラの解像度が自動的に表示されます。

タイプ

カメラの信号タイプ(Auto、AHD、およびTVI)を設定します。

カメラタイトル

チャンネルごとに名前を指定します。DVRとリモートソフトウェアの両方に名前が表示されます。

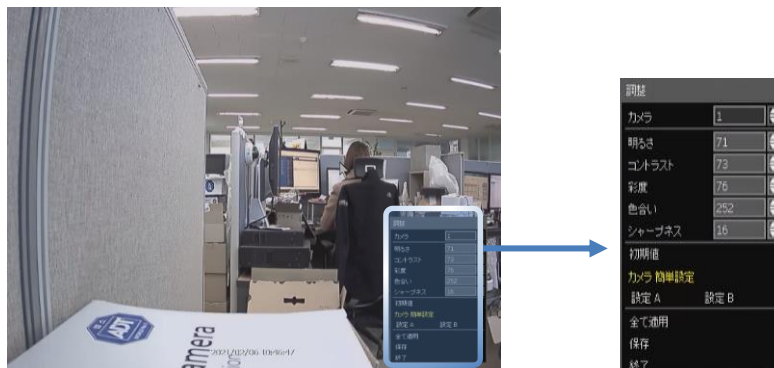
マスク

“マスク”はカメラの表示や再生をまるでカメラの録画がないように隠します。非表示の設定は、DVRと遠隔ソフトウェアの両方でライブビューと再生ビューの両方に適用されます。

調整

カメラの輝度、コントラスト、色などを設定します。使用可能なオプションは、カメラのモデルと機能によって異なります。

- [調整]セクションの [設定]をクリックしてセットアップ画面を表示します。



- ドロップダウンメニューオプションを使用して、適切なオプションを調整します。

- カメラのオプションをデフォルト値として設定するには、[DEFAULT] をクリックします。
- カメラの設定値をすばやく変更するには、[SET A] または [SET B] をクリックします。
- [すべて適用]では、すべてのチャンネルの値が同じになります。
- [完了]をクリックして終了します。

プライバシー

ライブおよび再生モードで、カメラの視野角 (FoV) 内の特定領域を非表示にします。お使いのカメラがこの機能をサポートしていることを確認してください。

- 設定をクリックして設定モードに入ります。
- 右下のポップアップメニューを使用して、プライバシー設定を配置する場所を選択し、色とインデックス番号を割り当てます。 [保存]をクリックして変更を保存し、[完了]をクリックしてメイン設定ページに戻ります。



4.2.2. 音声

ライブ表示中の音声入出力を選択し、特定のチャンネルと照合します。 音声チャンネルの数は、DVRモデルによって異なる場合があります。 システム設定に応じて、ライブディスプレイモードと再生モードの両方で音声聞こえます。

DVRとリモート側の間で音声通信を行うには、[双方向音声の使用] を選択します。



4.2.3. PTZ

このメニューでは PTZカメラのフルコントロールが可能です。 PTZカメラの動作の詳細については、“3.3 PTZの動作”を参照してください。

次の項目をチェックして、P/T/Z が正しく動作することを確認します。

- ・ 接続されている PTZカメラのプロトコルが正しいかどうかを確認します。
- ・ 接続された PTZカメラのボーレートを含む通信設定が、PTZプロトコルに割り当てられた値に従っ

ているかどうかを確認します。

- ・ 接続されている PTZカメラのアドレスが正しいかどうかを確認します。
- ・ PTZコントローラへの配線が正しいかどうかを確認します。

手順

Pelco-D プロトコルを使用した PTZカメラの設定方法 (例題)

- 1) RS-485ポートを介して PTZカメラとシリアル通信することを確認します。
- 2) プロトコルリストで“Pelco-D”を選択し、アドレスを設定します。
- 3) [保存]ボタンをクリックして、設定を確認します。

*** DVR モデルによっては、UTC機能はサポートされていません。**



プロトコル

接続されている PTZカメラの適切なプロトコルを選択します。 PTZカメラが UTCタイプのプロトコルで接続されている場合、ボーレートとアドレス設定は無効になります。

ボーレート

ボーレートレベルを 2,400bps～57,600bpsの範囲で選択します。(UTCタイププロトコルではサポートされません。)

アドレス

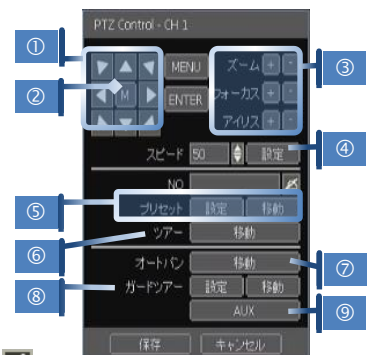
接続されているカメラの PTZドライバのアドレスを設定します。 PTZと同じ値にする必要があります。(UTCタイププロトコルではサポートされません。)

制御 (PTZモデルにより異なります。)

[PROGRAM]ボタンを選択すると、カメラの OSDメニューがモニターに表示されます。 PTZの速度、プリセット、ツアー、オートパンなどを設定します。

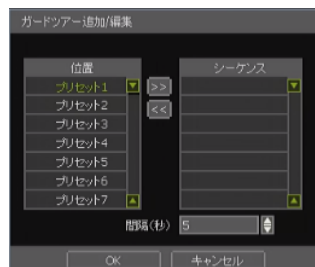
- ① 方向ボタン：カメラを上下左右に動かします。
- ② M (PTZ機種によります。)：カメラのOSDメニューをモニタに表示/非表示にします。メニューオプションを移動するには①の方向ボタンを使用します。
- ③ ズーム/フォーカス/アイリス：各機能に対する+/-の制御 (カメラのモデルと機能によって異なります。)
- ④ スピード：PTZ速度 (0 ~ 100) を変更します。これにより、仮想ジョイスティックを使用して DVR からカメラを制御するときの速度が設定されます。[設定]ボタンをクリックして変更を保存します。
- ⑤ プリセット

◆ 設定：カメラの位置を動かして、目的の位置にズームします。ボタンを使用してプリセット番号を選択します。[追加]を押して、新しいプリセットを保存します。



(システムは、1～255のプリセット数をサポートします。)

- ◆ 移動：番号を入力し、[移動]キーを押して、カメラをその番号のプリセット位置に移動します。
- ⑥ ツアー：カメラをプリセット位置間で順番に移動するように設定します。カメラは手動で無効にされるまでツアーを継続します。
- ⑦ オートパン：カメラを1方向に 360° 移動するように設定します。カメラは手動で無効にされるまで自動回転を実行し続けます。
- ⑧ ガードツアー：選択したプリセット間でカメラを設定された順序と間隔で移動するように設定します。カメラは手動で無効にされるまで、ガードツアーを実行し続けます。
 - ◆ 設定：間隔を設定し、プリセット位置を選択します。 **[>>]** ボタンをクリックしてシーケンスを追加します。シーケンス項目にプリセット数と設定された間隔時間が表示されます。
 - ◆ 移動：シーケンスよりプリセット位置を削除するには、シーケンス項目でプリセットを選択して、**[<<]** ボタンをクリックします。
- ⑨ AUX：AUX コントロールボタンを使用して、電源 LED、ワイパー、ポンプなどの追加設定を制御できます。



4.2.4. POS

POS機器は、RS-232ポートまたは、LANを介して DVRに接続できます。



NO

シリアル接続のポート番号 ex) NO1 = COM1、NO4 = COM4

カメラ

POSデバイスにカメラを割り当てます。

タイプ

DVRと POSデバイス間の接続タイプ

プロトコル

DVRと POSデバイス間の通信プロトコル

保存

DVRを有効または無効にしてトランザクションデータを保存します。

表示

DVRによるトランザクションデータの表示または、非表示します。

設定 (①)

設定画面に移動します。

- ◆ NO : POSデバイスの ID番号
- ◆ カメラ : POSデバイスに割り当てるカメラを選択します。
- ◆ タイプ : COM(RS-232)または、TCP/IP(LAN)を選択します。
- ◆ POS IP : POSデバイスがネットワーク経由で接続されているときにそのデバイスのIPアドレスを入力します。
- ◆ プロトコル: DVRと POSデバイス間の通信プロトコルです。
 - ① TEXT-IN: ASCII文字を受信します。
 - ② SDVR-POS: 製造元独自のプロトコル
 - ❖ 詳細はPOS販売先にお問い合わせください。
- ◆ 開始文字 : 割り当てられた文字を入力して、表示と保存を開始します。入力がない場合、システムはすべてのデータを表示し、トランザクションごとに分類せずに保存します。
- ◆ 終了文字: 割り当てられた文字を入力して、表示と保存を終了します。正しく動作するには、開始文字が必要です。
- ◆ 改行: 改行文字を設定します。(16桁の16進値である必要があります。)
 - ① [CRLF] / [CR] / [LF]: ASCIIタイプの POSで一般的に使用される文字。
 - ② [Custom]: 上記の一般キャラクター以外は使用できます。 使用できるのは数字(0~9)とアルファベット(A~F)のみです。偶数を入力してください。
 - 例) 16進値: 0x0D 0x0A → 0D0A
- ◆ 保存 : POSデータを保存します。



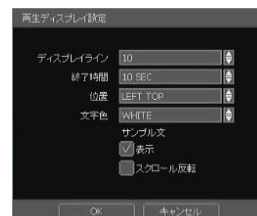
－ ライブディスプレイ設定

- ◆ ディスプレイライン: 画面に表示する行数を設定します。
- ◆ 終了時間 : 画面にテキストを表示する期間を設定します。設定した時間後に新しいデータが入力されない場合、データは画面から削除されます。“0”に設定されている場合、データは削除されません。(開始文字が存在し、文字を入力すると、クリア時間設定に関係なく現在のデータは削除されます)
- ◆ 位置 : POSデータの表示位置を指定します。
- ◆ 文字色 : 画面に表示される文字の色を選択します。“サンプルテキスト”に表示されている色で表示されます。
- ◆ 表示 : 選択すると、ライブモードでPOSデータが表示されます。
- ◆ スクロール反転 : スクロール方向が変更されます。 選択すると、下から上にスクロールでき、一番上に最新のデータが表示されます。

再生ディスプレイ設定 (②)

再生モードの設定画面を開きます。

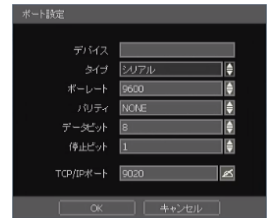
- ◆ ディスプレイライン: 画面に表示する行数を設定します。
- ◆ 終了時間 : 画面にテキストを表示する期間を設定します。設定した時間後に新しいデータが入力されない場合、データは画面から削除されます。“0”に設定されている場合、データは削除されません。(開始文字が存在し、文字を入力すると、クリア時間設定に関係なく現在のデータは削除されます)
- ◆ 位置 : POSデータの表示位置を指定します。
- ◆ 文字色 : 画面に表示される文字の色を選択します。“サンプルテキスト”に表示されている色で表示されます。
- ◆ 表示 : 選択すると、再生モードで POSデータが表示されます。
- ◆ スクロール反転 : スクロール方向が変更されます。選択すると、下から上にスクロールでき、一番上に最新のデータが表示されます。



ポート設定 (③)

通信ポートの設定画面を開きます。

- ◆ タイプ : 通信ポートのタイプを設定します。
 - － シリアル : シリアルMux接続がない DVR と POS デバイス間の接続用です。
 - － MUX : DVR と POS デバイス間の 1 対 Multi 接続用です。
- ◆ ボーレート : 接続されたPOSデバイスに従ってボーレートを設定します。
- ◆ パリティ : POSデバイスに従って、パリティを設定します。
- ◆ データビット : OSデバイスに従って、データビットを設定します。.
- ◆ 停止ビット : OSデバイスに従って、停止ビットを設定します。
- ◆ TCP/IPポート : TCP/IP番号を設定します。



4.2.5. キーボード

外付けキーボードを使用する場合は、ドロップダウンオプションからモデルと対応するボーレートを選択します。ボーレートはキーボード自体に設定されているボーレートと一致する必要があります。システム > 情報 設定ページのキーボードIDがキーボードの設定と一致していることを確認します。



4.3 イベント

4.3.1. センサー

システムに複数のセンサーを設置し、プレー及びポストアラームの録画や集中録画機能も利用できます。



オン/オフ

センサーをオンまたは、オフにします。

カメラ

機能を使用しようとするカメラを選択します。

リレー

機能を使用しようとするアラーム出力を選択します。

注意

リレー接点には最大 24V/1Aに対応できます。 24V/1Aを超える外部回路に接続すると、システムに問題が発生する可能性があります。

プリセット

センサーが動作されたときに PTZカメラをプリセット位置に移動するように設定します。(4.2.3 PTZ 動作メニューでプリセット位置を事前に設定しておく必要があります。)

保持時間 (ポストアラーム)

センサーが有効になるまでの録画期間を設定します。以前選択したカメラは録画設定に従って録画されます。録画が停止し、設定された期間が終了するとアラーム出力がオフになります。

プレーアラーム

センサーが有効になる直前の録画期間を秒単位で設定します。最大 5秒を入力します。プレーアラーム録画モードは、[録画]メニューで設定した録画速度で常に“連続”します。

タイプ

センサータイプを N/O(通常オープン)または N/C(通常クローズ)として選択します。通常、N/Oセンサータイプの回路が開いており、センサーの起動はクローズ時に発生し、N/Cタイプは逆に動作します。

ノート

センサータイプ(N/O または N/C)の設定を確認します。[ドライコンタクトタイプ]を使用することをお勧めします。但し、[ウェットコンタクトタイプ]を使用すると、システムが破損することがあります。

通知

ブザー音またはポップアップ警告によるセンサー通知を有効にします。

ノート

“カメラポップアップ”を有効にすると、マルチスクリーンモードでアラームが動作されると、システムは自動的にシングルチャンネルモードに切り替わります。

遠隔地通知

ネットワークを介したセンサーアラームの設定を有効にします。(最大 4チャンネル使用可能)



4.3.2. モーションセンサー

モーションが検出されたときに録画を開始するように DVRを設定します。選択したセンサー出力チャンネルを介してアラーム信号を動作することもできます。



オン/オフ

モーションをオンまたは、オフにします。

リレー

機能を使用するとするアラーム出力を選択します。

注意 リレー接点には最大 24V/1Aに対応できます。 24V/1Aを超える外部回路に接続すると、システムに問題が発生する可能性があります。

保持時間（ポストアラーム）

センサーの動作時間を 1 ～5秒に設定します。

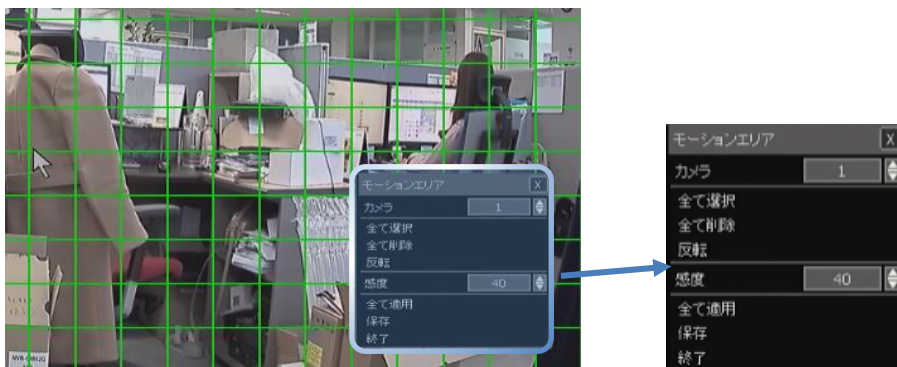
プリアラーム

センサーが有効になる直前の録画期間を秒単位で設定します。 最大 5秒を入力します。 プリアラーム録画モードは、[録画]メニューで設定した録画速度で常に“連続”します。

モーションエリア

カメラの動作領域と感度を設定します。 領域は、特定のブロックをクリックするか、マウスのカーソルを画面上にドラッグして複数のブロックを選択することで選択できます。 モーション検出が有効になっている領域には、緑色の境界線が表示されます。 選択されていない領域はグレーの枠で表示されます。

[モーションエリア]セクションの [設定]をクリックして領域を設定します。



モーション検出エリアを選択し、[保存]をクリックしてから [終了]をクリックして変更を保存します。 [全て適用] をクリックすると、カメラ全体の FoVでのモーション検出が有効になります。

ノート カメラを設置する場所の実際の動きを考慮し、モーション検出エリアと感度を適切に設定する必要があります。

通知

ブザー音またはポップアップ警告によるモーション通知を有効にします。

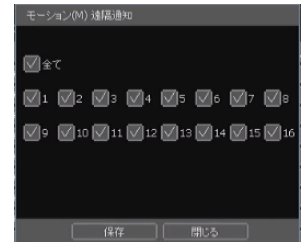
遠隔通知

ネットワークを介した動作アラームの設定を有効にします。

コピー設定

DVRに接続されているすべてのカメラに設定を適用するには、[コピー設定]ボタンをクリックします。：

- 設定を取得するチャンネルを選択します。
- コピーするプロパティを選択します。
- 設定を適用するターゲットチャンネルを選択します。
- 選択した他のすべてのチャンネルに設定を適用するには、[保存]をクリックします。



4.3.3. システムイベント

SMART HDDチェック、ビデオロス、録画失敗、電源失敗などの追加のDVR異常に対するアラームを設定します。



S. M. A. R. T.

HDDが動作不能になりかけたときにアラーム信号が動作します。HDDのステータスを確認するには、“4.1.4 ハードディスク”を参照してください。

ビデオロス

カメラ信号が切断されたときにアラーム信号が動作します。

録画失敗

HDDまたは、システムのエラーが原因で録画されない場合にアラーム信号が動作します。

ディスクフル

HDDの容量の一定割合を占めるときにアラーム信号が動作します。HDDがフルになったら録画を停止するように設定し、HDDがここで設定した一定率で占有されると、DVRは録画を停止し、アラームが動作されます。

ノート システムイベントは、“ON”に設定されている場合にだけイベントログに表示されます。

ノート S.M.A.R.T(Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology)は、HDDメーカーが開発した技術です。 場合によっては、S.M.A.R.TがHDDの異常動作を検出できない場合があります。 HDDメニューのHDDヘルスチェックを定期的に行うことをお勧めします。

4.4 録画

4.4.1. カメラ

チャンネルごとに個別に録画設定を行うことができます。



オン/オフ

各チャンネルで録画のオン/オフを設定します。 選択したチャンネルで録画が不要な場合は、カメラ信号が入力されても、該当するチャンネルの録画を[オフ]に設定します。 その後、カメラのケーブルを外さずにチャンネルの録画が停止します。 [オン]または [オフ]を選択できます。 デフォルトは [オン]です。

解像度

録画用の画像解像度を設定できます。 352×240、720×240、720×480、960×480、1280×720、1920×1080 から 1つの設定を選択します。 解像度が高くなるにつれて画質も高くなります。 例えば、352×240はVHSレベルであり、高品質カメラを使用すると960×480は DVDレベルの画質を示します。 画質が高くなると、録画ファイルのサイズが大きくなり、録画期間が短くなります。 従って、状況に応じた適切な解決策を選択することが重要であります。

Note 同じ画像の保存容量は異なります。 1バイト当たりの画像は画像寸法（横×縦）に対する比率であるため、720×240/288（2CIF）は352×240/288（1CIF）の2倍の大きさであり、720×480/576（D1）は記憶容量の約4倍の大きさであります。 そのため、同じ期間に高解像度を選択すると、同じハードディスク容量で占有されるストレージ容量が大きくなり、保存期間が短くなります。

FPS

各チャンネルのフレームを設定します。 残りの FPSは自動的に計算されます。 .

画質

録画品質を 1Mから 4Mに設定します。

画質の設定値は、画像あたりのファイルサイズに直接影響します。 例えば、画質が低くなるほどファイルサイズが小さくなります。 この場合、高圧縮によるモザイク現象が起こることもあります。 逆に、モザイク現象は画質が高くなるほどなくなります。 この場合、画像当たり必要ストレージ容量は増加して、全体の録画期間が少なくなります。 従って、録画画質を設定する際、必要な録画期間と各カメラ映像の重要度、アナログ信号品質などを考慮しなければなりません。

音声

音声チャンネルを選択します。

コピー設定

すべてのカメラに設定を適用するには、[コピー設定]ボタンをクリックします。

ノート 解像度とFPSの設定に従って、システムはデュアルストリームの「残りフレーム数」を自動的に計算します。

ノート デュアルストリーム機能は、ライブ映像モニタリングのネットワーク送信だけに適用されます。リモートソフトウェアでのVOD(再生)の場合、デュアルストリームとは関係なく、DVRの録画設定に従ってネットワーク伝送が行われます。

4.4.2. ライブストリーミング

録画画質とネットワークトラフィックを効果的に管理するために、2番目のストリームのフレームレートと解像度を設定します。例えば、ユーザは録画設定を「1080Pの解像度で30fps」にし、ネットワーク設定を「CIFの解像度で7fps」にすることができます。



解像度

送信する解像度を選択します。解像度が高いほど、データサイズに応じてネットワーク帯域幅が大きくなります。

FPS

送信するフレームレートを選択します。録画設定とは関係ありません。

画質

送信する画質を選択します。録画設定とは関係ありません。
品質が高いほど、データサイズに応じてネットワーク帯域幅が大きくなります。

音声

音声を送信するかどうかを選択します。
パーセントが低いほどネットワーク負荷は少なくなりますが、画質は悪くなります。逆に、パーセントが高いほどネットワーク負荷は増えますが、画質はよくなります。100%の画質は録画設定画質と同じ画質です。

コピー設定

すべてのカメラに設定を適用するには、[コピー設定]ボタンをクリックします。

4.4.3. 録画スケジュール

各カメラの録画スケジュールを設定します。スケジュールを設定するカメラを選択するか、[全て]を選択して一つの設定を全てのカメラに適用させることができます。録画は、1日 00 ~ 23の各時間(曜日を問わず)ごとに設定できます。休日用に特別な録画モードを設定することもできます。



色なし（オフ）

録画をしていない状態です。カメラ設定メニューで録画フレームを設定したとしても、スケジュールテーブルで [オフ] に設定した場合、システムは何も録画しません。

黄色（常時録画）

“カメラ”の設定に従って、常に録画します。

緑色（モーション録画）

システムは、動きが検出された場合だけ録画します。

“イベント > モーションアラーム”が無効の場合、システムは動作を検出したときに録画しますが、動作アラームは有効になりません。

オレンジ色（センサー録画）

“イベント > センサー”メニューの設定に従ってセンサーが動作された場合にだけ録画します。

水色（常時 + モーション録画）

“録画 > カメラ”メニューの設定に従って、システムは継続的に録画されます。

“イベント > モーションアラーム”の設定に従ってモーションが検出されると、録画モードからモーション設定に切り替えます。また、ネットワークを介して遠隔ソフトウェアに“モーションイベント”メッセージを通知します。

“イベント > モーションアラーム”メニューで“OFF”を設定し、“スケジュール”でこのモードを設定した場合、連続録画が行われ、動作が検出されても動作アラームは有効になりません。

ブラウン色（常時 + センサー録画）

“録画 > カメラ”メニューの設定に従って、常に“連続”で録画します。

ただし、センサーが動作されると、録画モードが“イベント > センサー”メニューに従ってセンサー設定に切り替わります。また、ネットワーク経由でリモートソフトウェアに“センサーイベント”メッセージを通知します。

“イベント > センサー”で“オフ”を設定し、このモードを“スケジュール”に設定すると、センサーが動作されても連続的なセンサーアラームは有効になりません。

桃色（モーション + センサー録画）

モーションが検出され、センサーが同時に動作されたときにだけ録画されます。“イベント > センサー”と“イベント > モーションアラーム”の両方が無効になっている場合、システムはセンサーが動作されて動きが検出されても、センサーも動き検出アラームも有効になりません。

ノート 録画スケジュールが“連続+モーション”または、“モーション+センサー”で設定されている場合には、通常動作時に連続または動き検出モードで録画します。ただし、モーションエリアでモーションが発生したり、アラームが起動したりすると、“イベント”メニューの“モーションアラーム”または“センサー”で設定した録画モードに切り替わります。

ダークブルーカラー

DST(サマータイム)中に録画されたデータは、再生モードのインテリ検索バーでダークブルーカラーで表示されます。

休日設定

特定の日を「休日設定」で“休日”として設定し、その日の特別な録画スケジュールを割り当てます。システムは最大 32個の休日をサポートします。

[日付]ボタン(📅)を押して説明を書き込んで、[追加]を押して休日をリストアップします



ノート 緊急録画

緊急の場合は、メニューバーのパニック録画ボタンを押してインスタント録画を有効にします。録画モードの設定に関係なく、フルフレームレートですべてのチャンネルの最大解像度での録画を瞬時に開始します。**E-REC** はライブモードで表示され、緊急録画で録画した動画の時間検索バーには赤色のバーが表示されます。

‘連続+’録画モード場合、秒当たり1フレームのみ録画

“連続+xx”モードを選択するときに連続録画を1フレームに設定するには、このチェックボックスをチェックします。

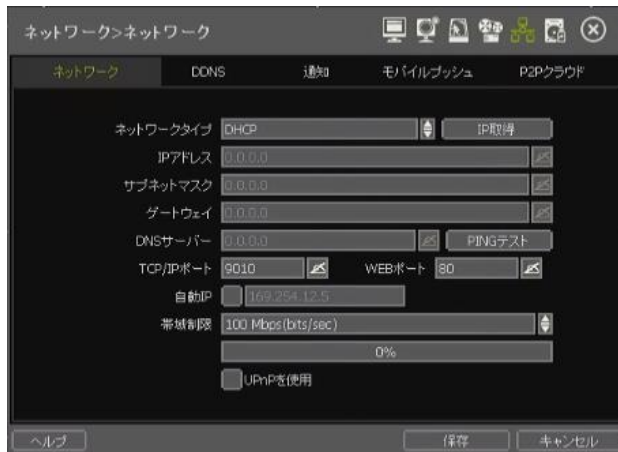
緊急録画実行時間

緊急録画モードで録画する時間の制限を設定します。 30秒/60秒/90秒/2分/5分/10分から選択します。

4.5 ネットワーク

DVRとルータを適切に設定することで、固定IPまたは、動的IPを介してネットワークまたは、インターネットに接続できます。

4.5.1. ネットワーク



ネットワークタイプ

動的IPには、[静的IP]または、[DHCP]を選択します

DHCPを選択すると、DVRは現在のネットワーク要件に従って自動的にネットワーク設定を行います。DHCPを選択した場合は、[IP取得]をクリックして、すべてのネットワーク設定を自動的に検出します。

[静的IP]を選択した場合は、必要なネットワーク設定をすべて手動で入力します。適切に設定するには、DVRにDHCPアドレスを割り当て、適切なネットワーク設定をすべて自動的に検出してから、ネットワークタイプを固定IPに戻して変更を保存することをお勧めします。

IPアドレス

DVRのIPアドレスを表示します。DHCPを選択すると、IPアドレスはネットワークの要件に合わせて自動的に調整されます。必要に応じて手動でIPアドレスを変更することもできます。

サブネットマスク

サブネットマスクアドレスは、システムが属するサブネットを分類します。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

ゲートウェイ

ルータまたはゲートウェイサーバのIPアドレスです。別のネットワークからインターネット経由で外部ルータを介してDVRに接続する際に必要です。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

DNSサーバ

ドメイン名サーバのIPアドレスを入力します。DDNS、Eメール通知、およびNTPサーバを使用するには、DNSサーバ情報を入力する必要があります。詳細については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

TCP/IPポート

ローカルまたはリモートでDVRに接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは9010です。

ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号(9020など)を入力する必要があります。

WEBポート

ウェブブラウザから接続するときに使用するポート番号を入力します。デフォルトは 80です。ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効な Webポート番号(例:8080)を入力する必要があります。

自動IP

自動IPによって割り当てられたシステムIPを自動的に表示します。

帯域制限

設定に応じて、システムはネットワーク経由で送信されるデータ量を 25kbpsから 1Gbpsまで制御できます。この機能は、特に狭い帯域のネットワーク条件下、またはユーザが“映像伝送によって占有されるネットワーク帯域幅”を一定レベルに制限する場合に効果的です。デフォルトは 100Mbpsです。

UPnP (Universal Plug and Play)を使用

UPnPは、DVRを同じネットワーク上の PCで自動的に検出できるプラグアンドプレイ機能です。DVRを検索するには、PCの「マイネットワーク」に移動します。PCはネットワークをスキャンして、サポートされているすべてのデバイスを探します。検出された DVRのファイル名の最初の 5文字はモデル番号を表し、その後に DVRの IPアドレスが続きます。

ネットワーク環境に基づいて必要な情報を入力します。

- ネットワークタイプ : スタティックIP を選択します。(固定IPの場合)
- IPアドレス : ローカルIP #をDVRに割り当てます。(例、192.168.0.164)
- サブネットマスク : LANのサブネットマスクを入力します。(例、255.255.255.0)
- ゲートウェイ : LANのゲートウェイを入力します。(例、192.168.0.1)
- DNSサーバ : DNSサーバのIP #を入力します。インターネット接続には、このIP番号を入力する必要があります。ISPに連絡して、IP# を入手してください。IP# がわからない場合は、“8.8.8.8”と入力できます。
- TCP/IPポート : デフォルトは、9010です。
ISPがポート番号9010をブロックしている場合は、別の有効なポート番号を入力する必要があります。(例、9020)
- WEBポート : デフォルトは、80です。
ISPがポート番号80をブロックしている場合は、別の有効な Webポート番号を入力する必要があります。(例、8080)
- 転送帯域幅 : デフォルトは、100Mbpsです。
ネットワークの状態を考慮して設定する帯域幅制限を選択します。

ノート 同時接続の最大数は 16ユーザです。

4.5.2. DDNS

公開DDNSサーバまたは、DVRメーカー(dynlink.net)が運営する DDNSサーバを使用して、動的IP経由で接続します。

DDNSサーバ

“DDNS使用”チェックボックスをクリックします。デフォルトは [DYNLINK.NET]です。ドロップダウンリストより [DYNDNS.COM] も選択できます。“dynlink.net”は DVRメーカーが運営する DDNSサーバの固定ドメイン名で、“dyndns.com”は公開 DDNSサーバの1つです。

ノート “ヘルプ”ボタンを使用すると、いくつかの重要な設定を行う方法を理解できます。たとえば、DDNSの設定方法に関するヘルプが必要な場合は、メニューの右下にある”ヘルプ”ボタンをクリックします。

ネットワーク環境に基づいて必要な情報を入力します。[保存]ボタンをクリックします。

- DDNSボックスの使用を有効にします。
- DDNSサーバ：DYNLINK.NETを選択します。
- TCP/IPポート：デフォルトは、80です。
- ドメイン名：DVR (DVROFFICEなど)にドメイン名を割り当てます。同じドメイン名が割り当てられている場合、[保存]をクリックするとメッセージがポップアップします。

デバイスIPマッピング使用

IPマッピングとポートフォワーディング(インターネット接続にルータを使用する場合など)を使用している場合は、[デバイスIPマッピングを使用する]と[外部IPを使用する]の両方を有効にして、正しく接続します。

リモートソフトウェアでの設定 (UVMS)

[オプション→設定]のメニューでDDNSアドレスとポート番号を入力します。

IEでの設定

Mac address + dynlink.netと入力できます。

サブドメイン名を使用する場合、ドメイン名 + dynlink.netを入力できます。

例) 1. Mac addressが “00:1C:84:01:00:02” の場合、<http://001c84010002.dynlink.net>と入力

例) 2. ドメイン名が “DVROFFICE” の場合、“http:// DVROFFICE.dynlink.net”と入力

4.5.3. 通知

遠隔通知

遠隔ソフトウェアPCの IPアドレスにアラームメッセージを送信できます。

この機能を使用して IPアドレスとイベントを設定するには、[遠隔通知]を選択します。



追加/編集/削除

通知を受信する遠隔ソフトウェアPCの IPアドレスを追加/編集/削除できます。

IPアドレス

イベント通知を受信する遠隔ソフトウェアPCの IPアドレスを入力します。

ポート

遠隔ソフトウェアPCで設定されるポート番号を入力します。 デフォルトは 8003です。

イベント

通知するイベントを選択します。 “全て”を選択すると、全てのイベントが通知されます。

Eメール通知

メールアドレスに通知を送信できます。 この機能を使用してEメールアドレスおよびイベントを設定するには、[Eメール通知]を選択します。



追加/編集/削除

Eメール通知を受信する Eメールアドレスを追加/編集/削除できます。

Eメール

イベント通知を受信するメールアドレスを入力します。

イベント

通知するイベントを選択します。“全て”を選択すると、全てのイベントが通知されます。

送信者設定 (SMTP)

Eメール通知を送信するように送信者を設定する必要があります。

- SMTPサーバ : SMTPサーバアドレスを入力します。
- ポート : 送信に使用するポート番号を入力します。
- ユーザー : 送信側アカウントのユーザを入力します。
- パスワード : 送信側アカウントのパスワードを入力します。
- 送信者 : 送信側のメールアドレスを入力します。
- 間隔設定 : Eメール通知には、システムが更新Eメールアドレスを送信する頻度を示す間隔を選択します。
- Eメールテスト : 設定が正しく入力されたかどうかを確認します。 DVRはEメールを送信し、結果を通知します。 場合によっては、SMTPサーバはEメールを受信しても送信しないことがあります。
- SSL認証の使用 : SMTPサーバでSSL認証 (Gmail、Yahooメールなど) が必要な場合は、このオプションを選択します。

ノート 設定の最優先事項は、常に”録画 > スケジュール”メニューにあります。従って、上記のイベント選択のチェックボックスがオンになっている場合でも、システムはモーションアラームまたは、センサーにアラームメッセージをメールで送信しません。動作およびセンサーのメール通知を受信するには、“スケジュール > 録画”、“イベント > モーションアラーム”、“イベント > センサー”を適宜設定します。

4.5.4. モバイルプッシュ

DVRに登録されているモバイルデバイスにイベント通知を送信できます。

モバイルアプリケーション“MV3000”は、登録前にスマートフォンデバイスにインストールする必要があります。この機能を使用するには [USE MOBILE NOTIFY] を選択し、通知するイベントを選択します。



モバイルアプリでは、アプリの右上にある+記号をクリックして、IPアドレスまたは DDNSを使用して DVRを追加します。

サイトがアプリのデバイスリストに追加されたら、リスト内の DVRをハイライトしてアプリの右下にある設定ボタンを押します。[プッシュチェックを使用する]が有効になっていることを確認します。

モバイルデバイスの IDは、DVRのモバイル通知テーブルに表示されます。

- ノート
1. iPhone、iPad、Android端末でモバイルプッシュ通知機能が利用可能です。
 2. モバイルプッシュ通知の登録は、モバイルに設定されている場合に使用できます。
 3. メニューの [削除] ボタンをクリックするか、モバイルデバイスで [プッシュ通知の無効] を選択すると、リストを削除できます。
 4. モバイルデバイスの最大数は 50 です。

削除 / 全て削除

モバイル デバイスが DVR に正しく登録されると、そのデバイスがリストに表示されます。デバイス ID は、モバイルデバイスの一意の ID です。削除する場合は、デバイスを選択し、[削除] ボタンをクリックします。その後、モバイル デバイスのプッシュ通知設定が無効になります。

[全て削除] ボタンをクリックすると、登録されている全てのデバイスを削除できます。

- ノート プッシュ通知機能は、DVR およびモバイルデバイスがインターネットに接続されている場合のみ動作します。

4.5.5. P2Pクラウド

QRコードの読み取りと ezP2P™ クラウドサーバをサポートします。

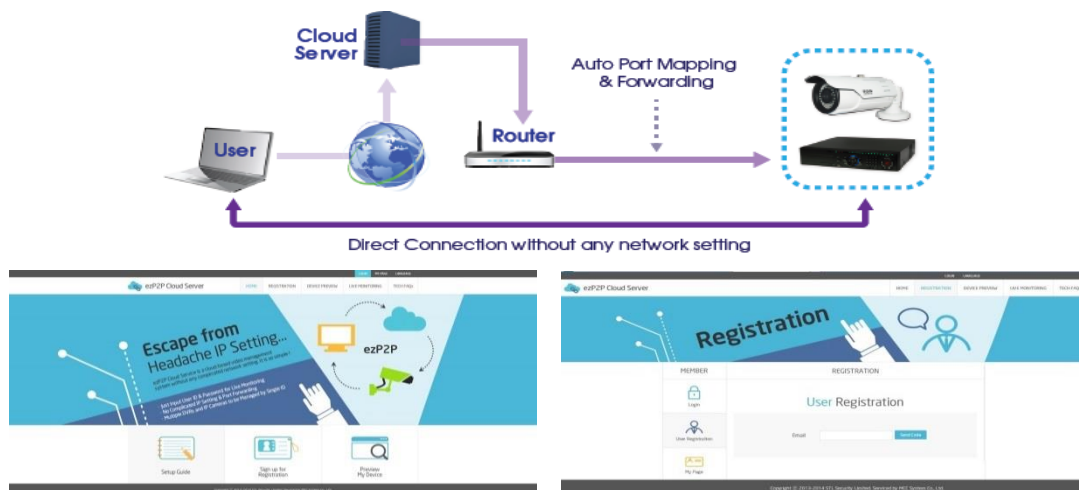
QRコードによる P2P™ 設定：[P2P使用]を選択すると、P2Pサービスが使用されます。



モバイルアプリケーションである MV3000 で QRコードをスキャンすると、簡単にシステムを登録して監視できます。

登録 (ezP2P™ クラウドサーバ内)

ezP2P™ クラウドサービスは複雑なネットワーク設定を必要としないクラウドベースの映像管理システムです。ezP2P™ クラウドサーバ (www.ezp2p.com) に自分のアカウントでログインするだけで、サムネイルプレビューとインスタントライブモニタリングが楽しめます。



登録 (DVRから ezP2P™ クラウドサーバへ)

[P2P 使用]を選択します。ezP2P™クラウドサーバサイトに登録されているE-MAILとPASSWORDを入力します。

The screenshot shows the 'ネットワーク>P2Pクラウド' (Network > P2P Cloud) window. The 'P2P 使用' (Use P2P) checkbox is checked. The MAC address is '90DA6A017A8E'. The P2P Login ID is 'HFXG9H49356W1111A'. Below this, there is a QR code labeled 'モバイル用QRコード' (Mobile QR Code). The 'EZP2P.COM登録' (EZP2P.COM Registration) checkbox is also checked. The email field contains 'ezp2p@ezp2p.com' and the password field contains '****'. The progress bar is at 0%. The status message at the bottom says 'ステータス: P2Pサービスが停止されました。' (Status: P2P service has been stopped.). There are '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom right.

[保存]ボタンをクリックして、ezP2P クラウドサーバとの通信を開始します。プロセスを上図に示します。登録が完了すると、ユーザは ezP2P™ クラウドにアクセスできるようになります。

接続 (ezP2P™ クラウドサーバ)

ezP2P™クラウドサービスサイト(www.ezp2p.com)にアクセスし、ログインします。スナップショットイメージと詳細情報を含む登録サイトリストが表示されます。

The screenshot shows the 'DEVICE PREVIEW' page on the ezP2P Cloud Server website. It displays 'Detail Information' for a registered device. The page includes a table with columns for 'Name', 'Snapshot', 'Network Information', and 'Product Information'. The table lists two devices: 'Camera' and 'DVR'. The 'Camera' device has a snapshot image and details for its network and product information. The 'DVR' device also has a snapshot image and details for its network and product information.

Name	Snapshot	Network Information	Product Information
Camera		MAC Address: 90DA6A017A8E External IP: 192.168.1.100 Internal IP: 192.168.1.101 Web port: 8080 Alarm port: 8081 P2P port: 8082 P2P port: 8083 P2P port: 8084	Homepage: http://www.ezp2p.com Device Type: IP Camera Model: EZP2P-IP-CAM-001 P2P Version: 1.0.0.0 P2P Protocol: H.264 P2P Port: 8080-8084
DVR		MAC Address: 90DA6A017A8E External IP: 192.168.1.100 Internal IP: 192.168.1.101 Web port: 8080 Alarm port: 8081 P2P port: 8082 P2P port: 8083 P2P port: 8084	Homepage: http://www.ezp2p.com Device Type: IP Camera Model: EZP2P-IP-CAM-001 P2P Version: 1.0.0.0 P2P Protocol: H.264 P2P Port: 8080-8084

注意

次の場合、P2Pクラウド機能は利用できない場合があります。

- 1) ルータが UPnP機能をサポートしていないか、UPnP機能がオフ。
 - 2) ファイアウォールがネットワークに設定されている。
(オープンするにはポート番号 50,000 またはその以上である必要があります。)
 - 3) 他の問題により、ネットワークの状態はサポートしていません。
- ネットワーク管理者またはインターネットサービスプロバイダーに問い合わせください。

ノート

ezP2P™は、DVRの MACアドレスのみを使用して、保存ネットワークのウェブブラウザから DVRに簡単に接続できる機能です。

この機能を使用するには、ウェブブラウザの検索バーに DVRの MACアドレスを次のように入力します：
http://[Mac Address].ezp2p.net

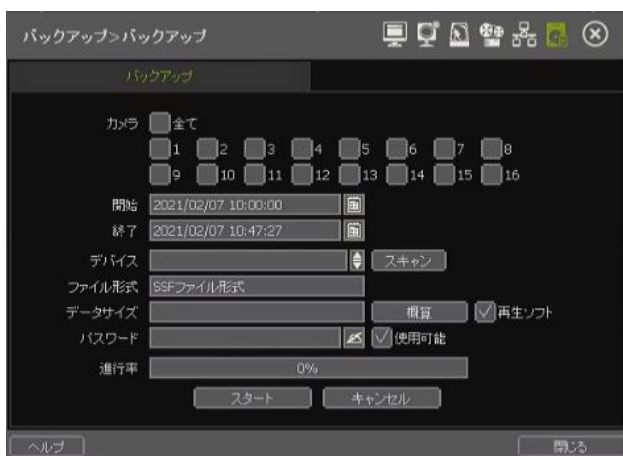
たとえば、Macアドレスが「00:1C:84:01:00:02」の場合、ユーザはアドレスを「001c84010002.ezp2p.net」と入力できます。

4.6 バックアップ

4.6.1. 手動バックアップ

映像再生中に映像を簡単に保管することができます。ライブモードではメニューバーの [バックアップ] アイコンをクリックしてバックアップメニューを開きます。再生モードではメニューバーの簡単バックアップアイコンを押します。キーを1回押すと、バックアップファイルの開始時刻が表示されます。アイコンをもう一度クリックして、バックアップクリップの終了時刻を指定します。バックアップメニュー画面が表示されます。

適切なUSBメモリを接続し、スキャンを押して認識してから、バックアッププロセスを開始します。



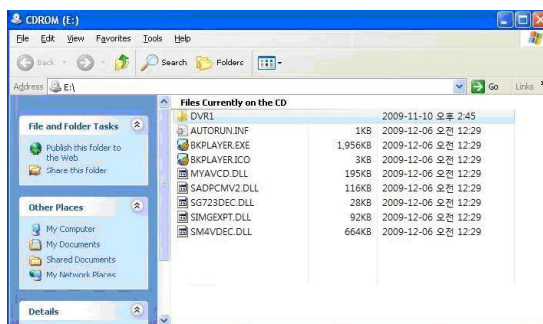
必要に応じて次のオプションを調整します。

- バックアップファイルに含めるチャンネルを選択します。
- バックアップファイルの開始時刻と終了時刻を調整します。
- 選択すると、保存されたファイルに「再生ソフト」が含まれます。
- バックアップファイルのサイズを確認するには、[概算]ボタンを押します。
- [再生ソフト]の横にあるチェックボックスをオンにして、バックアップファイルにバックアッププレーヤーを追加します。バックアッププレーヤーは、プログラムをインストールしなくてもビデオクリップを再生できます。
- 必要に応じてファイル名を編集し、保護パスワードを追加します。
- [スタート]を押してバックアップを開始します。画面にプログレスバーが表示されます。

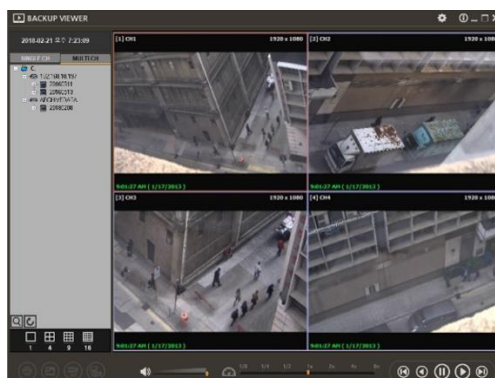
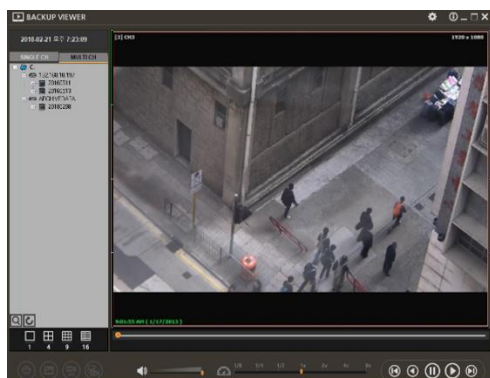
4.6.2. バックアップ映像の取得

[再生ソフト]を選択すると、追加インストールの必要なく PCでバックアップイメージを確認できます。 バックアップデバイス(USB、CD/DVD)をPCに接続すると、ファイルはUSBのフォルダに表示されます。

記録されたデータを再生するには、[MultiBackupPlayer.exe]ファイルをダブルクリックします。 バックアッププレーヤーで、再生する映像データファイル(SSF 形式)を日付フォルダで開きます。



シングルチャンネルを再生するには、[SINGLE CH]タブをクリックし、再生する SSFファイルを選択して表示領域にドラッグします。 複数のチャンネルを再生するには、[MULTI CH]タブと [Search] をクリックして、SSFファイルを保存するフォルダを開きます。



プレーヤーウィンドウの左下にあるアイコンを使用すると、画像を印刷、エクスポート、およびズームできます。

オプションメニュー

バックアッププレーヤーソフトウェアの [OPTION] ウィンドウには、さまざまな設定があります。

■ Use DirectDraw

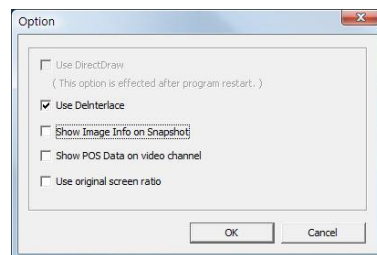
"Direct Draw"をサポートしていないPCもあります。 この場合、[オプション]メニューの [DirectDraw]チェックボックスをオフにできます。

■ Show Image Info on Snapshot

画像情報は、画像をエクスポートするときにテキストオーバーレイとして追加されます。

■ Show POS Data on video channel

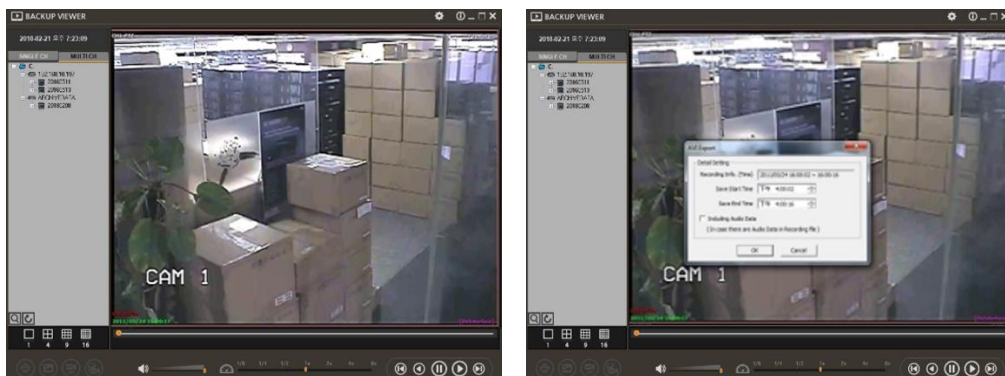
バックアップされたPOSデータは、再生中に表示できます。



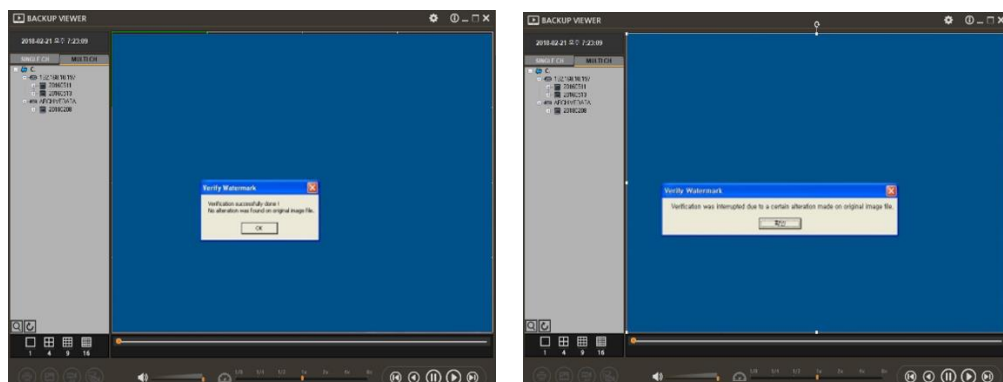
AVI ファイルのWATERMARK 確認

通常のメディアプレーヤーでファイルを再生するには、バックアップファイルをAVIファイルに変換します。

- 1) SSFファイルをシングル CHモードで再生し、[Pause]をクリックします。.
- 2) [AVI Convert]をクリックします。
- 3) 開始時刻と終了時刻を設定します。



AVIファイルがバックアッププレーヤーで再生されたら、[Watermark]ボタン()を押して、ファイルが変更されたかどうかを確認します。ファイルが変更されると、ポップアップメッセージが表示されます。



変更が見つかりません。

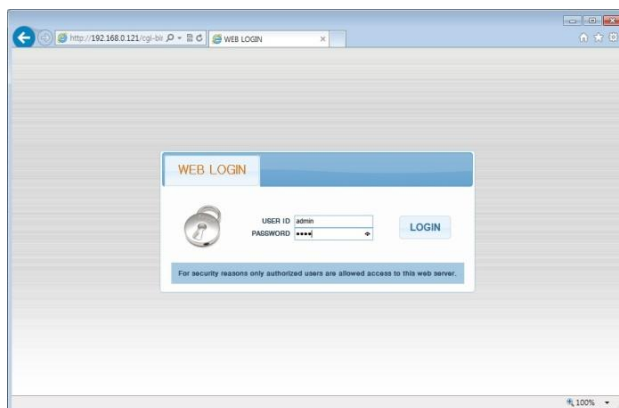
AVIビデオクリップが変更されました。

5. IEを介したウェブ監視

本システムのウェブ監視サービスは、独自のウェブサーバが内蔵されています。これにより、通常のウェブブラウザからネットワーク経由でシステムにアクセスし、追加のソフトウェアをインストールせずにライブモニタリング、再生、またはリモート設定を行うことができます。

5.1 ウェブログイン

Internet Explorerのページで、アドレスバーにDVRのIPアドレスまたは DDNSアドレスを入力します。 ログインページが表示されたら、ユーザIDとパスワードを入力します。 デフォルトのユーザーIDとパスワードは "admin"および "1234"です。 DVRに接続すると、ActiveXファイルのダウンロードとインストールを求められます。



ActiveX Installation

1. PCに ActiveXがインストールされていない場合は、インストールガイドメッセージが自動的に表示されます。
2. [install]をクリックし、インストールウィザードに従って ActiveXのインストールを完了します。



3. ActiveXファイルのダウンロード制限を回避するには、ウェブブラウザのセキュリティ設定でActiveXコントロールが有効になっていることを確認します。"ツール > インターネットオプション > セキュリティ > インターネット > カスタムレベル"に移動し、すべてのActive-Xコントロールとプラグインを有効にします。

5.2 ウェブモニタリング

ActiveXファイルが正しくインストールされると、DVRからのライブビューが自動的にウェブページに表示されます。再生やセットアップ、ログアウトなどのメニューを選択できます。



LIVE

ライブモードで表示するチャンネルを選択し、接続が切断された場合に再接続間隔を設定し、すべてのチャンネルを接続または切断できます。

PTZ CONTROL

DVRに接続された PTZカメラを制御するために、パン/チルト、ズームイン/アウト、フォーカスイン/アウト、およびプリセットボタンを制御できます。

FUNCTION

カメラからの音声入力を有効または無効にします。

インターレース機能を有効または無効にして、画質を向上します。

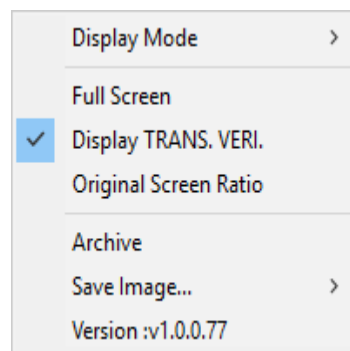
HIDE MENU/SHOW MENU

メニューバーを非表示にするには、[HIDE MENU]ボタンを押します。メニューバーを再度表示するには、[SHOW MENU]ボタンを押します。

POP-UP MENU

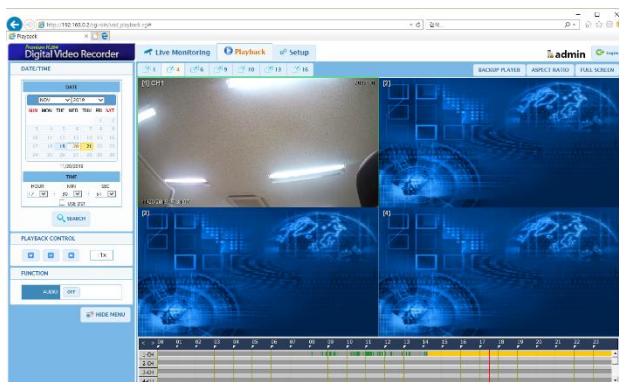
右クリックして追加オプションを開きます。:

- Display Mode: 現在のスプリットビュー オプションを 1x、4x、9x、または 16x オプションに変更します。
- Full Screen: 現在の分割画面を全画面表示で表示します。画面上の任意の場所を右クリックして全画面表示を終了します。
- Display TRANS. VERI.: POSテキストを表示します。
- Original Screen Ratio: カメラの元のアスペクト比を確認します。
- Archive: 映像を PCにバックアップします。画面を1回クリックしてバックアップを開始します。ファイルを保存するディレクトリを選択します。バックアッププロセスを終了するには、[Archive]オプションを再度クリックします。ポップアップ画面が表示され、アーカイブを保存するかどうかを尋ねられます。
- Save Image: 保存する画像のタイプを選択します。(JPG または、BMP)



5.3 ウェブ再生

DVRから遠隔で映像を再生するには、ウィンドウ上部の [PLAY] をクリックします。



PLAYBACK TIME

日付と時刻を選択し、[GO]をクリックして選択した時刻からの映像を表示します。

PLAYBACK ICON

再生映像を制御するには、[早送り]、[巻き戻し]、[再生/一時停止]ボタンを使用します。

PLAY DST

このボックスをオンにすると、DST(夏時間)中に重複したイメージが再生されます。

INTELLI-SEARCH BAR

赤色の縦線を検索する時刻に移動します。タイムバーの色は、さまざまな録画モードを示します。

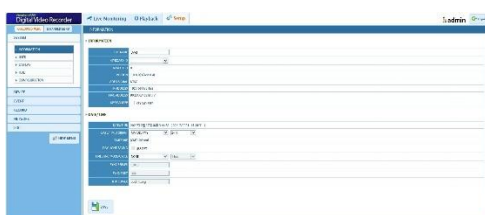
5.4 設定

[設定メニュー]

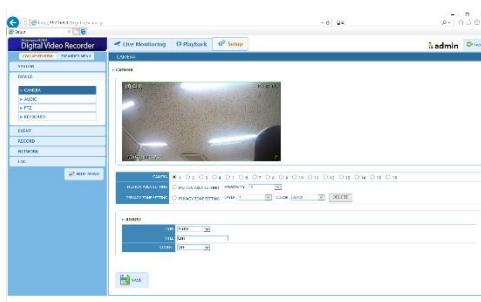
メイン項目	サブ項目
SYSTEM	SYSTEM STATUS
	INFORMATION
	USER
	DISPLAY
	HDD
	SETTING
	UPGRADE
	CONFIGURATION
DEVICE	CAMERA
	AUDIO
	PTZ
	KEYBOARD
	SENSOR
EVENT	CAMERA ALARM
	EXTRA ALARM
RECORD	CAMERA
	SCHEDULE
NETWORK	NETWORK
	DDNS
	NOTIFICATION
LOG	SYSTEM LOG
	EVENT LOG

正しいIDとパスワードでログインすると、以下のようにウェブセットアップウィンドウでさまざまな設定を行うことができます。このウェブセットアップは、“admin”アカウントでのみ使用できます。

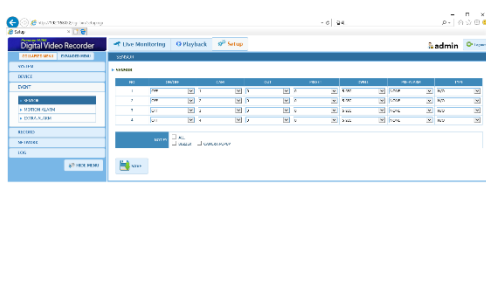
[System]



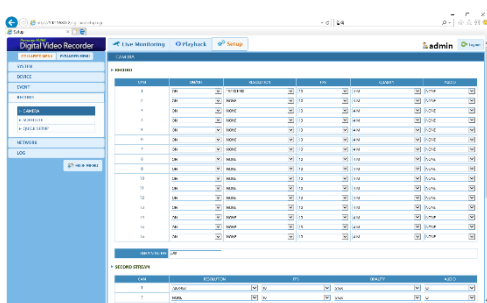
[Device]



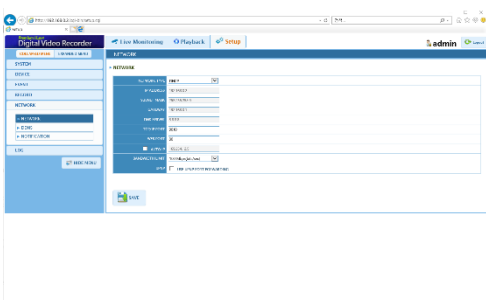
[Event]



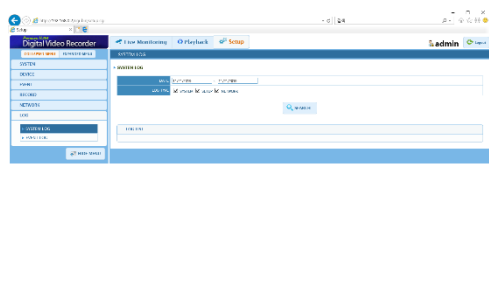
[Record]



[Network]



[Log]



ノート この DVRシステムには独自のウェブサーバが組み込まれています。したがって、ウェブ CGI画面は、インターネット接続に関係なく、DVRの組み込みウェブサーバから直接サポートされます。

ノート <システム再起動> セットアップを変更せずにシステムを再起動できます。この機能を使用すると、システムの動作異常によりネットワークが切断され、再接続を試みることができます。DHCP モードの場合は、システムに割り当てられた IP番号を変更できます。

